

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	301 豊かな心の育成 ①子どもの体験活動機会の提供 【重点施策】■
【現状と課題】	子どもの社会性を育み、自主性や行動力を向上させ、健全な子育てを図るために、自然や他人を思いやる心を育成するような取り組みが必要となっており、学校や家庭での勉強だけではなく、様々な人とふれあい、いろいろな体験活動の機会を提供することが求められています。 また、子どもたちに多様な体験活動の場を提供するためには、家庭、地域、学校等の連携が必要となっているほか、体験活動をサポートする多様な人材の確保が課題となっています。
【施策の目標】	家庭、地域、学校、社会教育施設が連携し、遊び、スポーツ、レクリエーション等を通じた体験活動や、豊かな自然を活用した体験活動等、子どもに様々な体験活動の機会を提供し、健全育成を図ります。
【対応】	本市における自然や様々な施設等、地域の財産を活かし、家庭、地域、学校、社会教育施設が連携し、遊び、スポーツ、レクリエーション等を通じた活動など、子ども達に様々な体験活動機会を提供し、健全育成を図ります。 子どもたちの幅広い分野にわたる体験活動を支援するため、市民ボランティアとの協働を図るとともに、ボランティアの確保に努めます。
【施策の目標指標】	＜指標＞ 社会教育施設を活用した体験活動の延べ参加者数 ＜20年度実績値＞ 12,036人 ＜26年度目標値＞ 12,000人
【主管課所室】	703500 教育委員会 09生涯学習室
【関係課所室】	子ども育成課、環境総務課、大森山動物園、学校教育課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 356000 商工部 40大森山動物園

【取組・事業No.】 301①1 【取組・事業名】 動物とのふれあい飼育体験機会の提供

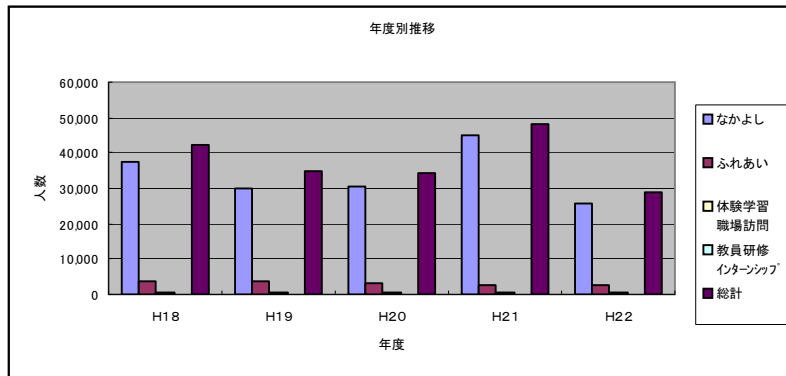
【事業概要】 動物園の特徴を活かし、動物飼育やふれあいなどの体験活動を通じて、職業意識の向上に結びつけたり、いのちの大切さや思いやりによる心豊かな人間性を育むなどの機会を提供する。

【事業の目標】 動物に関する知識を深め、生き物および自然を愛する気持ちを育てます。

【事業の目標指標】 <指標>「入園者数」に対する「体験学習・職場訪問、なかよしタイム、ふれあい教室の参加利用者と教職員等研修者数」の割合 <20年度実績値> 13.6% <26年度目標値> 15.0%

	H18	H19	H20	H21	H22
なかよし	37,564	30,148	30,545	44,737	25,629
ふれあい	3,808	3,924	3,074	2,697	2,803
体験学習					
職場訪問	739	534	382	568	581
教員研修					
インターンシップ	41	18	17	21	30
総計	42,152	34,624	34,018	48,023	29,043
入園者	245,627	242,607	255,432	308,326	245,058
割合	17.2%	14.3%	13.3%	15.6%	11.9%

【関係データ】



【関係HP】 <http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zo/default.htm>

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	1,904 千円	11.9%	体験学習・職場訪問受け入れ、なかよしタイム、ふれあい教室の開催ほか
■ 23	1,904 千円	12.0%	同上
■ 24	1,904 千円	13.0%	同上
■ 25	1,904 千円	14.0%	同上
■ 26	1,904 千円	15.0%	同上

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (教職員)
 <子どもの対象年齢> 0歳～15歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,904千円	1,904千円	動物由来感染症への対応で、なかよしタイムの開催数、参加者数が減少した。	感染症対策の徹底とPR

23	1,904千円	千円		
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 301①2 【取組・事業名】 社会教育施設を活用した体験活動機会の提供

【事業概要】 公民館や自然科学学習館、太平山自然学習センターの社会教育施設を活用し、子どもの自主性や行動力を向上させ、思いやる心の育成や、知的好奇心を高めるため、様々な体験活動の機会を提供する。

【事業の目標】 子どもの要望に応えられる体験活動機会を提供します。

【事業の目標指標】 <指標> 延べ参加者数 <20年度実績値> 12,036人 <26年度目標値> 12,000人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	4,144 千円	7,658人	子どもに様々な体験活動の機会を提供する。
■ 23	4,144 千円	9,000人	子どもに様々な体験活動の機会を提供する。
■ 24	4,414 千円	10,000人	子どもに様々な体験活動の機会を提供する。
■ 25	4,414 千円	11,000人	子どもに様々な体験活動の機会を提供する。
■ 26	4,414 千円	12,000人	子どもに様々な体験活動の機会を提供する。

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 7 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	4,586千円	4,144千円	・各公民館・市民サービスセンターにおいて、キャンプやものづくりなどの体験活動事業を実施した。延べ参加者数1,099人 ・太平山自然学習センター440人 ・自然科学学習館6,119人	様々な体験活動により、参加者の交流と子どもの心身の育成を図るための事業を計画・実施する。
23	4,414千円	4,039千円	・各公民館・市民サービスセンターにおいて、キャンプやものづくりなどの体験活動事業を実施した。延べ参加者数1,351人 ・太平山自然学習センター402人 ・自然科学学習館7,525人	子どもの心身の育成を図るための事業を計画し、幅広く参加者を募るためのPRを実施する。
24	4,410千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 301①3 【取組・事業名】 子ども体験活動推進事業

【事業概要】

小学校区毎に学校施設等を利用して「家族・地域の絆づくり」を推進するため、あきた家族ふれあいサンサンデー（第3日曜日）に管理指導員を配置し、親子や地域住民の交流の場として学校開放事業を実施する。
また、民間を含めた様々な子ども向け行事等を紹介する情報誌「プレスタ」を年2回作成し、全小・中学校に配付する。

【事業の目標】

家庭、地域、学校、社会教育施設が連携し、遊び、スポーツ、レクリエーション等を通じて、子どもの学校外活動を充実させます。

【事業の目標指標】

<指標> 延べ参加者数 <20年度実績値> 3,624人 <26年度目標値> 4,000人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	1,298 千円	2,703人	親子や地域住民の交流の場として学校施設等を開放する。
□ 23	0 千円		平成23年度からは、学校開放についてはスポーツ振興課、プレスタについては子ども未来部へ事業を移管する。
□ 24	0 千円		
□ 25	0 千円		
□ 26	0 千円		

【事業対象の区分】

子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☒ (全世代)
 <子どもの対象年齢> 0歳～17歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,393千円	1,298千円	・5月～7月、9月から11月の第3日曜日に市立小学校を開放した。延べ参加者数2,703人 ・子どものための遊びと学びの情報誌「プレスタ」を7月、12月に各16,000部発行した。	平成23年度からは、学校開放についてはスポーツ振興課、プレスタについては子ども未来部へ事業を移管する。
23	千円	千円		
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 301000 環境部 10環境総務課

【取組・事業No.】 301①4 【取組・事業名】 環境学習・啓発事業

【事業概要】 子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、環境についてわかりやすく興味を持って学習する場を提供するほか、環境学習の推進に必要な支援を行うことにより、身近な自然や地域の環境を大切にすることを意識を育む。
なお、平成23年度より、自然環境保全と事業を統合し、一体的な事業の推進を図っている。(現在の事業名:自然環境保全・環境学習推進経費)

【事業の目標】 環境にやさしい人づくりを進めるため、環境学習を支援すると同時に、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にし、環境に対する意識の向上を図るための各種啓発を行います。

【事業の目標指標】 <指標> こどもエコクラブメンバーおよびサポーターの登録数 <20年度実績値> 1617人 <26年度目標値> 1000人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	2,562 千円	174%(1,742人)	講師の派遣、資料・情報提供等
■ 23	2,260 千円	217%(2,167人)	講師の派遣、資料・情報提供等
■ 24	2,035 千円	200%(2,000人)	講師の派遣、資料・情報提供等
■ 25	2,035 千円	200%(2,000人)	講師の派遣、資料・情報提供等
■ 26	3,035 千円	200%(2,000人)	講師の派遣、資料・情報提供等

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 3 歳 ~ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	2,742千円	2,562千円	講師の派遣、資料・情報提供等	こどもエコクラブ間の交流の促進。県で実施を検討している交流会への積極的な参加を促す。
23	2,260千円	2,174千円	講師の派遣、資料・情報提供等	こどもエコクラブ間の交流の促進。県と連携しながら、こどもエコクラブ交流会の開催を検討する。
24	2,035千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 252000 子ども未来部 20子ども育成課

【取組・事業No.】 301①5 【取組・事業名】 保育士体験事業の受入れ

【事業概要】 学校の総合学習の時間等を活用しながら、近隣の小中学校、高校の保育士体験を受け入れる。また、長期休みを利用して土曜日や夕方など保育体験を希望する人の受入れも検討する。

【事業の目標】 多くの児童・生徒を受け入れることにより、子育てに対する直接的な関わりと多様な体験活動の場を提供するよう努めます。

【事業の目標指標】 <指標> 実施施設数 <20年度実績値> 13か所 <26年度目標値> 12か所

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	13か所	保育士体験活動
■ 23	0 千円	13か所	保育士体験活動
■ 24	0 千円	13か所	保育士体験活動
■ 25	0 千円	13か所	保育士体験活動
■ 26	0 千円	12か所	保育士体験活動

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (保育士)
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	13か所対応	保育体験を希望する人が増えるよう、楽しいと思える子育ての現場を体験させる。
23	0千円	0千円	13か所対応	保育体験を希望する人が増えるよう、楽しいと思える子育ての現場を体験させる。
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 301①6 【取組・事業名】 「はばたけ秋田っ子」教育推進事業

【事業概要】 市内中学生が日頃取り組んでいる文化活動を発表し合う「中学校文化フェスティバル」や中学生が一つのテーマに基づいて自ら企画し行動する「中学生サミット」を開催するほか、複数の学校が合同体験活動を実施する「学校群合同体験活動」を実施し、感動体験の充実を図る。

【事業の目標】 他校との交流活動を通して感動体験を共有することにより、児童生徒の豊かな人間性を育みます。

【事業の目標指標】 <指標> 各校の取組状況を確認しながら、継続実施 ①中学校文化フェスティバル ②中学生サミット ③学校群合同体験活動 <20年度実績値> ①参加生徒数255人 ②参加生徒数7,642人 ③参加校25校 <26年度目標値> ①参加生徒数250人 ②参加生徒数7,000人 ③参加校25校

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	3,085 千円	①参加生徒数594人 ②参加生徒数2,259人③35校	中学校文化フェスティバル、中学生サミット、学校群合同体験活動
■ 23	3,339 千円	①参加生徒数250人 ②参加生徒数7,000人 ③参加校25校	中学校文化フェスティバル、中学生サミット、学校群合同体験活動
■ 24	3,339 千円	①参加生徒数250人 ②参加生徒数7,000人 ③参加校25校	中学校文化フェスティバル、中学生サミット、学校群合同体験活動
■ 25	3,339 千円	①参加生徒数250人 ②参加生徒数7,000人 ③参加校25校	中学校文化フェスティバル、中学生サミット、学校群合同体験活動
■ 26	3,339 千円	①参加生徒数250人 ②参加生徒数7,000人 ③参加校25校	中学校文化フェスティバル、中学生サミット、学校群合同体験活動

【事業対象の区分】 子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☒ (小中学校)
<子どもの対象年齢> 6歳～15歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	3,388千円	3,085千円	①9校594人が参加し、伝統芸能や吹奏楽、創作ダンスなど、日頃の学習や部活動の成果を披露した。②市内26校、2,529人が、4つのグループに分かれ、クリアップなどの活動実践を行った。③10グループ35校、1,562人の児童生徒が体験学習や交流活動などに取り組んだ。	各校の取組を支援するとともに、学校間の交流をととした感動体験の共有化を図ることができるよう、事業の一層の推進を図る。
			①8校437人が参加し、伝統芸能や吹奏楽、創作ダンスなど、日頃の学習の成果を披露した。②被災者招	

23	3,339千円	2,888千円	待事業に24校4,206人の生徒が参加し、被災児童生徒に手製のうちわやしおりを配付した。③10グループ38校、1,420人の児童生徒が体験活動や交流活動等に取り組んだ。	各校の取組を支援するとともに、学校間の交流をととした感動体験の共有化を図ることができるよう、事業の一層の推進を図る。
24	3,301千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 705000 教育委員会 20中央図書館明徳館

【取組・事業No.】 301①7 【取組・事業名】 子どもの読書活動の推進

【事業概要】

各図書館において、おはなし会や各種講座、資料展示等を行う。また、出張おはなし会や出張講座、ブックトーク等の読書指導、移動図書館による学校巡回を行う。
市民全体の読書活動を推進する中で、子どもの読書活動の意義を広く啓発する。

【事業の目標】

考え方、学び方、表現の仕方、生き方を身につける大切な経験としての読書活動を推進し、次代を担う子どもの健やかな成長に資するよう市民全体に子どもの読書活動の意義を啓発していきます。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 子どもの登録者数 ＜20年度実績値＞ 10,161人 ＜26年度目標値＞ 10,200人

【関係データ】

【関係HP】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/mt/default.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	555 千円	9,431人	子ども向けの各種資料展示や講座の開催、団体貸出しサービスのほか、学校巡回を実施する。
■ 23	442 千円	9,600人	子ども向けの各種資料展示や講座の開催、団体貸出しサービスのほか、学校巡回を実施する。
■ 24	442 千円	9,800人	子ども向けの各種資料展示や講座の開催、団体貸出しサービスのほか、学校巡回を実施する。
■ 25	442 千円	10,000人	子ども向けの各種資料展示や講座の開催、団体貸出しサービスのほか、学校巡回を実施する。
■ 26	442 千円	10,200人	子ども向けの各種資料展示や講座の開催、団体貸出しサービスのほか、学校巡回を実施する。

【事業対象の区分】

子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
 ＜子どもの対象年齢＞ 0 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	565千円	555千円	各図書館において、子ども向けの事業を実施した。 29事業 延べ参加者数 5,488人	様々な事業を展開し、子どもへの読書に親しむ環境づくりの充実に努める。
23	442千円	168千円	各図書館において、子ども向けの事業を実施した。 29事業 延べ参加者数 4,991人	様々な事業を展開し、子どもへの読書に親しむ環境づくりの充実に努める。
24	442千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 401000 農林部 11 農林総務課

【取組・事業No.】 301①8 【取組・事業名】 農業体験学習推進対策事業(再掲)

【事業概要】

子どもたちが農業体験等を通じて「食」への理解を深め、豊かな情操を育むことを目的に小学校等が実施する農業体験学習に対し助成する。
また、奥椿岱地区第一市民農園の利用団体を対象に、農業体験等を通じた食育活動を支援する。

【事業の目標】

農業体験学習を通じ、自然の恩恵や農業者の様々な知恵や活動を学ぶことで、「食」に関する感謝の気持ちと理解を身につけるよう、学校関係者や協力農家と連携し、食育の推進を図ります。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 事業を実施した学校の累計数 ＜20年度実績値＞ 14校 ＜26年度目標値＞ 0校

【関係データ】

--

【関係HP】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ag/mn/taiken-gakusyu.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	400 千円	実施校18校	小学校4校、幼稚園1校に助成
■ 23	400 千円	実施校19校	〃
■ 24	240 千円	実施校21校	小学校2校、幼稚園1校に助成
■ 25	80 千円	実施校23校	小学校1校に助成
■ 26	0 千円		

【事業対象の区分】

☒ 子ども
 ☐ 若者
 ☐ 妊婦
 ☐ 産婦
 ☐ 父親
 ☐ 母親
 ☐ 他の区分
 ☐ ()

＜子どもの対象年齢＞ 3 歳～ 12 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	400千円	400千円	小学校4校、幼稚園1校に対し補助金を交付した。	農業体験学習に協力してもらえる農業者が限られ、学校側へ提供できる情報が少ない。JAなどの連携を強化し、農業者の情報を集める必要がある。
23	400千円	400千円	小学校4校、幼稚園1校に対し補助金を交付した。	農業体験学習が学校の学習に取り入れられ、食育の推進が図られていることから、平成25年度をもって事業を廃止する予定。
24	240千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	301 豊かな心の育成 ②心の健康づくり体制の充実 【重点施策】■
【現状と課題】	子どもを取り巻く環境は、著しく変化しており、特に、思春期を中心に、不安や悩み、ストレスを抱える子どもが増えています。このような状況に鑑み、小中学校等に、カウンセリングの専門家等を配置するなど、子どもや保護者が気軽に相談できる体制を整備するとともに、心の健康に関する市民講座等を開設する必要があると考えます。
【施策の目標】	小中学校における教育相談体制を整備・充実するとともに、心の健康に関する市民講座の充実を図ります。
【対応】	小中学校にスクールカウンセラーや心の教室相談員等を配置し、教育相談体制を整備・充実するとともに、心の健康に関する理解を深めるための健康講座を実施します。
【施策の目標指標】	＜指標＞ 市民意識調査アンケートより「子どもの情緒面で心配なことがある割合」 ＜20年度実績値＞ 35.6%(H18) ＜26年度目標値＞ 25.6%
【主管課所室】	701500 教育委員会 15学校教育課
【関係課所室】	子ども未来センター、健康管理課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 208500 保健所 30健康管理課

【取組・事業No.】 301②1 【取組・事業名】 精神保健福祉相談・教育事業

【事業概要】 心の健康相談の開催と思春期等の心の病気について健康講座を実施する。

【事業の目標】 心の病気について知識の普及啓発を図るとともに心の健康問題に関する相談を実施し、早期発見・早期治療に結びつくことができるように支援します。

【事業の目標指標】 <指標> 相談件数 <20年度実績値> 1,800件 <26年度目標値> 1,850件

【関係データ】

【関係HP】 <http://www.city.akita.akita.jp/city/hl/hm/soudan.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	1,530 千円	2,651件	心の相談日、心のケア相談、思春期講座等
■ 23	1,856 千円	2,651件	心の相談日、心のケア相談等
■ 24	1,856 千円	2,651件	精神保健福祉相談日、心のケア相談、心のケア相談セミナー
■ 25	1,856 千円	2,651件	
■ 26	1,856 千円	2,651件	

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☒ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,530千円	1,530千円	心の相談日(20人)、心のケア相談(84人)、思春期講座(23人)の実施。	相談件数の増加に伴い、23年度は心のケア相談の回数を増やし相談体制の充実を図る。
23	1,856千円	1,808千円	心の相談日(17人)、心のケア相談(111人)、心のケア相談セミナー(197人)の実施。	思春期等の精神疾患について知識を提供し、対応能力の向上を図るとともに早期治療につなげる。
24	1,886千円	千円		思春期等の精神疾患について知識を提供し、対応能力の向上を図るとともに早期治療につなげる。
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 301②2 【取組・事業名】 スクールカウンセラー配置事業(県の事業)

【事業概要】 中学校にスクールカウンセラーを配置し、不安や悩みをもつ児童生徒や保護者の相談に応じるとともに、教職員と連携した対応を行う。

【事業の目標】 不安や悩みをもつ児童生徒および保護者に対する相談活動の充実、教職員との連携の強化により、不登校やいじめなどの対応の充実を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 相談件数 <20年度実績値> 2,413件 <26年度目標値> 2,500件

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	相談件数2,726件	中学校にスクールカウンセラーを配置(県の事業)
■ 23	0 千円	相談件数2,500件	中学校にスクールカウンセラーを配置(県の事業)
■ 24	0 千円	相談件数2,500件	中学校にスクールカウンセラーを配置(県の事業)
■ 25	0 千円	相談件数2,500件	中学校にスクールカウンセラーを配置(県の事業)
■ 26	0 千円	相談件数2,500件	中学校にスクールカウンセラーを配置(県の事業)

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☒ (教職員、小中学校)
 <子どもの対象年齢> 6 歳 ~ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	生徒608件、保護者762件、生徒と保護者182件、教職員1,174件の計2,726件の相談があった。	不登校やいじめの問題に悩む子どもや保護者に親身に対応していくために、スクールカウンセラーと当該校の教職員の連携強化を図る。
23	0千円	0千円	生徒574件、保護者642件、生徒と保護者166件、教職員998件の計件の相談があった。	不登校やいじめの問題に悩む子どもや保護者に親身に対応していくために、スクールカウンセラーと当該校の教職員の連携強化を図る。
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 301②3 【取組・事業名】「心の教室相談員」配置事業

【事業概要】 生徒や保護者が、不安や悩みを気軽に話せる第三者的な存在として「心の教室相談員」を中学校に配置する。(県委託事業)

【事業の目標】 「心の教室相談員」を配置することにより、校内教育相談体制の充実を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 相談件数 <20年度実績値> 150件 <26年度目標値> 250件

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	761 千円	相談件数308件	中学校に心の教室相談員を配置
■ 23	761 千円	250件	中学校に心の教室相談員を配置
■ 24	761 千円	250件	中学校に心の教室相談員を配置
■ 25	761 千円	250件	中学校に心の教室相談員を配置
■ 26	761 千円	250件	中学校に心の教室相談員を配置

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☒ (教職員、中学校)
 <子どもの対象年齢> 13 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	761千円	761千円	上新城、太平、豊岩、岩見三内、雄和、下浜、下北手の7中学校に6人の相談員を配置した。相談件数は21年度177件から308件と大幅に増加した。	必ずしも相談件数の多寡が成果を表すとは言えない事業であり、生徒一人一人の状況に応じた相談活動となるよう、必要に応じて当該校の職員との連携を図ることが重要である。
23	761千円	748千円	太平、豊岩、岩見三内、雄和、下浜、下北手の6中学校に5人の相談員を配置した。相談件数は22年度308件から364件に増加した。	必ずしも相談件数の多寡が成果を表すとは言えない事業であり、生徒一人一人の状況に応じた相談活動となるよう、必要に応じて当該校の職員との連携を図ることが重要である。
24	761千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 255000 子ども未来部 70子ども未来センター

【取組・事業No.】 301②4 【取組・事業名】 思春期講座

【事業概要】

思春期の児童がいのちの大切さを認識し、自他の体と心に対し思いやりのある行動ができるとともに、生命を継承することの尊さや家庭を築くことの大切さを理解できるよう支援するため、小中学校と連携し講座を実施する。

【事業の目標】

参加者数の増加を図り、自他の体と心に対し思いやりのある行動ができるとともに、将来家庭を築き、子育てに希望がもてる児童を育成します。

【事業の目標指標】

<指標> 講座の実施回数 <20年度実績値> 1回 <26年度目標値> 2回

【関係データ】

【関係HP】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/wf/cr/default.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	40 千円	2回	2校において各1回の実施
■ 23	40 千円	2回	2校において各1回の実施
■ 24	40 千円	2回	2校において各1回の実施
■ 25	40 千円	2回	2校において各1回の実施
■ 26	40 千円	2回	2校において各1回の実施

【事業対象の区分】

子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 9 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	40千円	40千円	2回	中学校1校、小学校1校で実施
23	40千円	40千円	2回	中学校1校、小学校1校で実施
24	40千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	302 健やかな体の育成 【重点施策】□
【現状と課題】	少子化やライフスタイルの変化により、遊びの中で運動をする機会が減り、子どもの生活習慣の乱れや体力の低下が心配される中で、スポーツを通じてからだところを育てるスポーツ少年団活動の重要性が増してきています。 一方で、児童数の減少やニーズの多様化により、スポーツ少年団の活動や運営が難しくなっており、優れた指導者の育成やゆとりある活動基準、幅広い分野での交流体験活動など、子どもや保護者にとって魅力ある団の育成が課題となっています。 情報化社会にあり、様々な情報が氾濫している状況の中で、性行動の低年齢化もみられ、10代からの性感染症罹患が危惧されます。適切な判断と行動をするためには、正しい知識を身につけることが課題となります。
【施策の目標】	体を動かすことの楽しさ、仲間とともにスポーツをする喜びを体験させ、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を身につけるよう環境づくりをします。 性感染症・HIV感染者、エイズ患者の早期発見のために、エイズクリニック・相談の利用者の増加を図るとともに、正しい知識の普及に努めます。
【対応】	多くの子どもにスポーツを楽しんでもらうよう、幼児スポーツ教室の開催やスポーツ少年団活動の支援を行います。 エイズクリニック・相談者の増加を図り、機会教育を行います。
【施策の目標指標】	＜指標＞ ①小学生のスポーツ少年団加入率 ②エイズ相談件数 ＜20年度実績値＞ ①28.3% ②378件 ＜26年度目標値＞ ①30.0% ②390件
【主管課所室】	703000 教育委員会 08スポーツ振興課
【関係課所室】	健康管理課、学事課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703000 教育委員会 08スポーツ振興課

【取組・事業No.】 3021 【取組・事業名】 スポーツ少年団の育成・支援

【事業概要】 種目別交流大会の開催や指導者の保険料の助成、ジュニア指導者養成セミナー等の開催により、スポーツ少年団活動を活性化する。

【事業の目標】 スポーツ少年団の活動が子どもや保護者にとってより魅力的なものとなるよう働きかけ、多くの子どもがスポーツに親しめるよう支援します。

【事業の目標指標】 <指標> 小学生の加入率 <20年度実績値> 28.3% <26年度目標値> 30.0%

【関係データ】

【関係HP】 <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/sp/sinnkou/suposyou.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	1,531 千円	27.7%	種目別交流大会の開催、指導者保険料の助成、指導者養成セミナーの開催
■ 23	1,767 千円	28.3%	種目別交流大会の開催、指導者保険料の助成、指導者養成セミナーの開催
■ 24	1,767 千円	28.9%	種目別交流大会の開催、指導者保険料の助成、指導者養成セミナーの開催
■ 25	1,767 千円	29.5%	種目別交流大会の開催、指導者保険料の助成、指導者養成セミナーの開催
■ 26	1,767 千円	30.0%	種目別交流大会の開催、指導者保険料の助成、指導者養成セミナーの開催

【事業対象の区分】 子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
<子どもの対象年齢> 6 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,599千円	1,531千円	12の種目別交流大会の開催および指導者保険料の助成を行った。指導者養成セミナーは東日本大震災の影響で実施できなかった。	23年度は、指導者養成セミナーの内容の充実、開催の周知を図り、より多くの指導者に参加を呼びかける。
23	1,767千円	1,720千円	12の種目別交流大会の開催および指導者保険料の助成を行っほか、指導者養成セミナーを開催した。	指導者養成セミナーは、指導者の資質向上等を目的に開催しているが、参加者を見ると指導者よりも父兄の参加割合が多い傾向にある。今後は、多くの指導者に参加してもらえるよう、セミナーの内容の見直しや開催の周知をはかっていく。
24	1,760千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703000 教育委員会 08スポーツ振興課

【取組・事業No.】 3022 【取組・事業名】 幼児スポーツ教室

【事業概要】 秋田大学の協力を得て、就学前の幼稚園児等を対象としたスポーツ教室を開催し、運動遊びを通して体を動かす楽しさを体験させる。

【事業の目標】 より多くの子どもたちが体を動かす楽しさを体験できるよう、多くの幼稚園、保育園に参加を働きかけます。

【事業の目標指標】 <指標> 参加幼稚園・保育園数 <20年度実績値> 21園 <26年度目標値> 40園

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	124 千円	35園	幼児スポーツ教室の開催
■ 23	160 千円	36園	幼児スポーツ教室の開催
■ 24	160 千円	37園	幼児スポーツ教室の開催
■ 25	160 千円	38園	幼児スポーツ教室の開催
■ 26	160 千円	40園	幼児スポーツ教室の開催

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 5 歳～ 6 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	160千円	124千円	35の幼稚園、保育園を対象に幼児スポーツ教室を開催した。	協力を依頼している秋田大学から、学生の派遣数を減らしてほしいと要望があった。23年度は対応する職員を増員するほか、付添いの保育士にも手伝ってもらい、希望する幼稚園等がすべて参加できるようにする。
23	160千円	85千円	44の幼稚園、保育園を対象に幼児スポーツ教室を開催した。	前年度同様、協力を依頼している秋田大学のほうから、学生の派遣数を減らしてほしいと要望があった。年々、参加を希望する園も増加してきており、厳しい状況であるが、対応する職員を増員するほか、付添いの保育士にも協力してもらい、希望する幼稚園等がすべて参加できるよう事業を行っていく。
24	109千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 208500 保健所 30健康管理課

【取組・事業No.】 3023 【取組・事業名】 エイズ予防対策事業

【事業概要】 エイズ相談・検査事業(性感染症検査を含む)を実施するとともに予防啓発を行う。

【事業の目標】 エイズクリニック・相談の利用率を高め、個々に対して正しい知識の普及のために機会教育を行います。

【事業の目標指標】 <指標> エイズクリニック・相談件数 <20年度実績値> 378件 <26年度目標値> 390件

【関係データ】

【関係HP】 <http://www.city.akita.akita.jp/city/hl/hm/aids.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	1,715 千円	244件	エイズ・性感染症検査・相談
■ 23	2,115 千円	369件	エイズ・性感染症検査・相談
■ 24	2,115 千円	376件	エイズ・性感染症検査・相談
■ 25	2,115 千円	383件	エイズ・性感染症検査・相談
■ 26	2,115 千円	390件	エイズ・性感染症検査・相談

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 13 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,991千円	1,715千円	エイズクリニック・相談件数 244件、高校での健康教育、 学事課へ情報提供、世界エイズデー等に合わせ、 ポスター、パンフレットを提供した。	利用者が減少傾向にある。エイズクリニック利用時を個別の重要な機会教育の場として捉えているため、利用者の増加を図るための継続した事業PRが必要とされる。
23	2,115千円	1,954千円	エイズクリニック相談件数 241件、学校教育課へ資料による情報提供、世界エイズデー等に合わせ、ポスターパンフレットを提供した。	停電により開催が1回中止となった。受診者の増加を図るため、引き続き事業のPRが課題となる。24年度はコンビニ等、より多くの人が目にする場所へパンフレット等の配布を依頼していく。
24	2,442千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701000 教育委員会 030学事課

【取組・事業No.】 3024 【取組・事業名】 小学校フッ化物洗口事業

【事業概要】 秋田市立小学校45校の児童について、保護者の希望を確認し、週1回、学校でフッ化物洗口を継続的に実施する。

【事業の目標】 児童のむし歯予防対策の推進と児童自らの健康に関する意識の向上を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> フッ化物洗口実施人数割合 <20年度実績値> - <26年度目標値> 90%

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
☐ 22	千円	-	
☒ 23	11,011 千円	84%	小学校でフッ化物洗口を週1回、年35回実施する。1年生は、夏季休業後に開始する。
☒ 24	9,927 千円	86%	小学校でフッ化物洗口を週1回、年35回実施する。1年生は、夏季休業後に開始する。
☒ 25	10,608 千円	88%	小学校でフッ化物洗口を週1回、年35回実施する。1年生は、夏季休業後に開始する。用品の点検と補充をする。
☒ 26	9,927 千円	90%	小学校でフッ化物洗口を週1回、年35回実施する。1年生は、夏季休業後に開始する。

【事業対象の区分】 子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
<子どもの対象年齢> 7 歳 ~ 12 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	千円	千円		
23	11,011千円	8,988千円	・9月7日から全学年で年25回実施。 ・参加児童数13,859人(88.3%)	9月から全学年で一斉に実施したため、実施回数が年25回にとどまった。 24年度は、5月から開始し、実施回数を年36回としたい。
24	9,903千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 208500 保健所 30健康管理課

【取組・事業No.】 3025 【取組・事業名】 子宮頸がん等ワクチン接種事業

【事業概要】 子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチン接種について対象者へ、接種費用の全額を助成するもの

【事業の目標】 任意接種であるが、市民にワクチンの周知を図り、接種が円滑に実施されるよう努める

【事業の目標指標】 <指標> 子宮頸がん予防ワクチンの接種率を国の基準に基づき、85%を目標とする。 <20年度実績値> - <26年度目標値> -

【関係データ】

【関係HP】 <http://www.city.akita.akita.jp/city/hl/hm/sikyukeigan-vaccine.htm>

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	117,334 千円	23年2月から23年度にわたる事業のため、22年度は見込めない	任意接種である、子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌ワクチン接種の費用接種を全額助成
■ 23	601,343 千円	85%	//
■ 24	298,078 千円		
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 0 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	135,288千円	135,184千円	任意接種である、子宮頸がん、ヒブ、肺炎球菌ワクチン接種の費用接種を全額助成	子宮頸がん予防ワクチンの供給が不足し、接種ができない状況が発生した。供給が安定される時には、広報等で周知を図る。
23	601,343千円	374,937千円	対象者に接種費用を全額助成した。 子宮頸がん予防ワクチン接種率82.1%	子宮頸がん予防ワクチンの供給が安定し、希望者全員が接種できた。また、平成24年3月末日までの事業が、平成25年3月末日まで延長された。
24	298,078千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	303 確かな学力の向上 【重点施策】□
【現状と課題】	子どもたちを取り巻く環境は急速に変化しています。このような社会の中で、子どもたちが、たくましく生きていくためには、基礎的・基本的な知識や技能、筋道を立てて考える力、自分の思いや考えを豊かに表現する力など「確かな学力」を育む必要があります。
【施策の目標】	各校において、適切な学習指導が行われるよう学校訪問指導を通して助言等を行うとともに、教職員の指導力向上にかかる教職員研修会の充実を図ります。また、情報リテラシーの向上のため、小中学校の情報教育環境の充実を図ります。
【対応】	すべての小中学校を対象に学校訪問指導を行うほか、教科および領域の指導に関する研修会の充実を図ります。また、年次計画により、学校のパソコンの整備・更新を行います。
【施策の目標指標】	＜指標＞ ①学校訪問数 ②指導力向上にかかる講座実施数 ③パソコン整備台数 ＜20年度実績値＞ ①73校 ②28講座 ③563台 ＜26年度目標値＞ ①全ての小中学校 ②30講座 ③563台
【主管課所室】	701500 教育委員会 15学校教育課
【関係課所室】	学事課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701000 教育委員会 030学事課

【取組・事業No.】 3031 【取組・事業名】 小・中学校情報教育環境の整備事業

【事業概要】 児童生徒の情報化対応能力を向上させるため、文科省の整備方針に準じて、コンピュータ室および普通教室へパソコンを整備する。

【事業の目標】 引き続き機器を更新し、児童生徒の情報化対応能力の向上を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 更新台数 <20年度実績値> 563台 <26年度目標値> 563台

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	166,201 千円	466台	
■ 23	175,323 千円	860台	
■ 24	96,702 千円	426台	
□ 25	0 千円	0台	
■ 26	127,669 千円	563台	

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	174,133千円	166,201千円	466台	
23	175,323千円	166,606千円	739台	
24	146,905千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 3032 【取組・事業名】 学校訪問指導、教職員研修会の充実

【事業概要】 小中学校における学習指導等の充実を図るため、学校訪問指導を通し助言等を行うとともに、教職員の指導力の向上にかかる教職員研修会の充実を図る。

【事業の目標】 児童生徒一人ひとりに、確かな学力を身につけさせるよう、学校における学習指導の充実を図るとともに、教職員の指導力の向上にかかる研修会の充実を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> ①学習指導にかかる学校訪問数 ②学習指導にかかる教職員研修会の講座数 <20年度実績値> ①73校 ②28講座 <26年度目標値> ①すべての小中学校 ②30講座

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	①71校②28講座	学校訪問指導、教職員研修会(事業全体の中で本取組の事業費のみを算出することは困難)
■ 23	0 千円	①70校②28講座	学校訪問指導、教職員研修会(事業全体の中で本取組の事業費のみを算出することは困難)
■ 24	0 千円	①70校②28講座	学校訪問指導、教職員研修会(事業全体の中で本取組の事業費のみを算出することは困難)
■ 25	0 千円	①70校②30講座	学校訪問指導、教職員研修会(事業全体の中で本取組の事業費のみを算出することは困難)
■ 26	0 千円	①70校②30講座	学校訪問指導、教職員研修会(事業全体の中で本取組の事業費のみを算出することは困難)

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (小中学校)
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	①小学校46校、中学校25校に加え、市立高等学校2校、専修学校1校について、計画的な学校訪問指導を行った。また、学校の要請に基づく要請訪問を延べ12回実施した。②各教科等の授業改善、指導力の向上をめざして、校長会との共催による「全市一斉授業研究会」を含め、28講座の教職員研修会を開催した。	①児童生徒の学習状況や各校の実情に応じた授業改善と学習指導の充実が図られるよう、本市「学校教育の重点」に基づき、現職教員との協議を深めながら、課題解決のための具体的な指導助言等を行う。②教科等の指導における今日的な課題や授業づくりのあり方について、効果的で実効性のある研修となるよう内容の充実を図る。
23	0千円	0千円	①小学校46校、中学校24校に加え、市立高等学校校、専修学校2校について、計画的な学校訪問指導を行った。また、学校の要請に基づく要請訪問を延べ14回実施した。②各教科等の授業改善、指導力の向上をめざして、校長会との共催による「全市一斉授業研究会」を含め、68講座の教職員研修会を開催し	①児童生徒の学習状況や各校の実情に応じた授業改善と学習指導の充実が図られるよう、本市「学校教育の重点」に基づき、現職教員との協議を深めながら、課題解決のための具体的な指導助言等を行う。②教科等の指導における今日的な課題や授業づくりのあり方について、効果的で実効性のある研修となるよう内容の充実を図る。

			た。	
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	304 家庭の教育力の向上 【重点施策】□
【現状と課題】	いつの時代も、子どもの成長にとって家庭は大きな役割を果たし、本来家庭が持つ子どもの成長に必要な教育力を十分に発揮することが求められています。 しかし、都市化や核家族化、少子化などによる社会状況の変化に伴い、身近に子育てや育児について相談できる人が少なくなり、その問題を一人で抱える家庭が増加しています。そのため、子育て家庭では、子育てやしつけの仕方について一人で悩み、孤立感を強め、虐待の遠因となっており、家庭における保護者の悩みや不安を解消するため、より効果的な事業が必要となっています。 また、核家族化や共働きなどの家庭事情を考慮し、保護者が積極的に各種講座等に参加できるように、一時的に子どもを保育するなど受入れの環境を整備する必要があります。
【施策の目標】	保護者等が安心して子育てについての電話や面接等により気軽に相談ができ、自立している環境づくりに努めます。
【対応】	今後も子育てに関し不安をや悩みを抱えながら取り組む家庭の増加が予測されることから、家庭教育相談の存在意義と重要性が増すこととなります。 家庭教育相談事業のPRに努めるとともに、専門的な知識を持つ相談員から、適切な対応を受けられるような事業のあり方を検討し、家庭の教育力の向上を図ります。
【施策の目標指標】	＜指標＞ ①児童家庭相談、女性相談の件数 ②家庭教育相談件数 <20年度実績値> ①6,709件 ②1,131件 <26年度目標値> ①7,690件 ②1,200件
【主管課所室】	703700 教育委員会 13女性学習センター
【関係課所室】	子ども未来センター、生涯学習室

取組・事業検証シート

【部局課所室】 255000 子ども未来部 70子ども未来センター

【取組・事業No.】 3041 【取組・事業名】 児童家庭相談、女性相談

【事業概要】 子どもの最善の利益を考慮し、子どもおよびその家庭の相談に応じ、保護者も含めた支援により子どもの福祉の向上を図る。また女性に関する相談に応じ、自ら問題を解決していけるように支援する。

【事業の目標】 児童家庭相談に適切に対応することにより子どもの健やかな育成を支援します。女性相談の充実に努め、子育て力の向上を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 相談件数 <20年度実績値> 6,709件 <26年度目標値> 7,690件

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	18,945 千円	5,341	児童家庭相談の実施 事業費は子ども未来センター運営費の一部
■ 23	20,519 千円	7,183	児童家庭相談の実施、事業費は子ども未来センター運営費の一部
■ 24	20,519 千円	7,348	児童家庭相談の実施 事業費は子ども未来センター運営費の一部
■ 25	20,519 千円	7,517	児童家庭相談の実施 事業費は子ども未来センター運営費の一部
■ 26	20,519 千円	7,690	児童家庭相談の実施 事業費は子ども未来センター運営費の一部

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 0 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	20,958千円	18,945千円	5,341件	各機関との連携を図りながら、子どもおよびその家庭の相談に応じていく。
23	18,847千円	18,279千円	3,900件	相談事業の充実を図ると共に、家庭相談事業のPRにも努め気軽に相談できるようにする。
24	17,896千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 3042 【取組・事業名】 家庭教育相談事業

【事業概要】 子ども未来センターの家庭相談員へ相談業務を委嘱し、電話・面接相談や保育園、幼稚園や母子福祉施設への訪問相談を行う。また、公民館で実施している家庭教育講座等への指導や助言をする。

【事業の目標】 保護者等が安心して子育てについての相談ができ、自立していける体制づくりに努めます。

【事業の目標指標】 <指標> 相談件数 <20年度実績値> 1,131件 <26年度目標値> 1,200件

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	989件	電話・面接相談や保育園、幼稚園や母子福祉施設への訪問相談を行った。
■ 23	0 千円	1,050件	電話・面接相談や保育園、幼稚園や母子福祉施設への訪問相談を行った。
■ 24	0 千円	1,100件	電話・面接相談や保育園、幼稚園や母子福祉施設への訪問相談を行う。
■ 25	0 千円	1,150件	電話・面接相談や保育園、幼稚園や母子福祉施設への訪問相談を行う。
■ 26	0 千円	1,200件	電話・面接相談や保育園、幼稚園や母子福祉施設への訪問相談を行う。

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 0 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	相談実績 989件	各機関との連携を図りながら、子どもおよびその家庭の相談に応じていく。(「304 家庭の教育力の向上、子ども未来センター所管項目と同等」)
23	0千円	0千円	相談実績 939件	各機関との連携を図りながら、子どもおよびその家庭の相談に応じていく。(「304 家庭の教育力の向上、子ども未来センター所管項目と同等」)
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 3043 【取組・事業名】 乳幼児学級

【事業概要】 公民館等において、地域の子育て経験者や支援ボランティアと連携し、乳幼児を持つ親と子に交流の機会を提供しながら、子どもを取り巻く諸問題や家庭でのしつけの大切さなど、子育てに関する様々な学習機会を提供することにより、家庭の教育力の向上を図る。

【事業の目標】 学習機会の拡充に努め、家庭教育力の向上を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 延べ参加者数 <20年度実績値> 4,821人 <26年度目標値> 5,000人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	517 千円	4,546人	子育てに関する様々な学習機会を提供する。
■ 23	475 千円	4,900人	子育てに関する様々な学習機会を提供する。
■ 24	475 千円	4,950人	子育てに関する様々な学習機会を提供する。
■ 25	475 千円	4,950人	子育てに関する様々な学習機会を提供する。
■ 26	475 千円	5,000人	子育てに関する様々な学習機会を提供する。

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 0 歳～ 5 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	545千円	517千円	各公民館・市民サービスセンターにおいて乳幼児学級や講座などを実施した。延べ参加者数4, 546人	少子化が進む社会の中で、乳幼児やその家庭での子育てを支援するための学級や講座を実施する。
23	543千円	475千円	各公民館・市民サービスセンターにおいて乳幼児学級や講座などを実施した。延べ参加者数3, 901人	少子化が進む社会の中で、乳幼児やその家庭での子育てを支援するための学級や講座を実施する。
24	554千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 3044 【取組・事業名】 家庭教育学級

【事業概要】

子どもを取り巻く社会環境の著しい変化に対応して、家庭が子どもの成長に必要な機能を十分に果たすことができるよう、市内における各公民館・西部市民サービスセンターが中心となって子育てに関する学習機会を提供する家庭教育学級を開催する。なお、仕事を持っている女性や、父親の家庭教育への参加の重要性が高まっていることから、父親も参加できるように、就労後の家庭教育学級の開催も行う。

【事業の目標】

子育てに関する学習機会を提供します。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 公民館等における実施回数 ＜20年度実績値＞ 65回 ＜26年度目標値＞ 70回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	609 千円	145回	子育てに関する学習機会を提供する家庭学習学級の開催
■ 23	651 千円	152回	子育てに関する学習機会を提供する家庭学習学級の開催
■ 24	651 千円	154回	子育てに関する学習機会を提供する家庭学習学級の開催
■ 25	651 千円	154回	子育てに関する学習機会を提供する家庭学習学級の開催
■ 26	651 千円	154回	子育てに関する学習機会を提供する家庭学習学級の開催

【事業対象の区分】

☐ 子ども ☐ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☒ 父親 ☒ 母親 ☐ 他の区分 ()
 ＜子どもの対象年齢＞ 7 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	609千円	609千円	145回	いかにニーズを把握し、魅力ある学習機会(講座)を提供するか。 また、現状の把握に努め、各公民館等で積極的に学習機会の提供を図っており、実施回数が増加傾向にあるので、目標値の見直しが必要である。
23	247千円	224千円	63回	いかにニーズを把握し、魅力ある学習機会(講座)を提供するか。 また、現状の把握に努め、各公民館等で積極的に学習機会の提供を図っており、実施回数が増加傾向にあるので、目標値の見直しが必要である。
24	270千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703700 教育委員会 13女性学習センター

【取組・事業No.】 3045 【取組・事業名】 親のためのセミナー

【事業概要】 親同士の交流を図りながら、子育てや家族・家庭の大切さ、男女の固定的な役割分担意識の見直しなどについて考える機会とする。

【事業の目標】 親同士が子育てや家族、家庭の悩みなどについて話し合い、交流を図ることにより、多様な考えに触れ、親が自分自身について振り返り、心身ともに健康な子どもを育てるための前向きな方法を見いだすとともに、男女平等観に立った家族・家庭の大切さや子どもの問題および教育に対する親の関心をさらに高めます。

【事業の目標指標】 <指標> 延べ参加人数 <20年度実績値> 82人 <26年度目標値> 120人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	15 千円	34人	※親のためのセミナーⅠ 「子育ても自分らしく」を開催。 ※親のためのセミナーⅡ 「シングルマザーのお話サロン～ほっとしてイキイキ」を開催。
■ 23	64 千円	113人	※子育て中の親・シングルマザーを対象に「親のためのセミナー」を開催する。
■ 24	48 千円	120人	※子育て中の親・シングルマザーを対象に「親のためのセミナー」を開催する。
■ 25	48 千円	120人	※子育て中の親・シングルマザーを対象に「親のためのセミナー」を開催する。
■ 26	48 千円	120人	※子育て中の親・シングルマザーを対象に「親のためのセミナー」を開催する。

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 3歳～12歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	20千円	15千円	※親のためのセミナーⅠ～子育ても自分らしく 3歳～小学生の子どもを持つ親を対象に、子育てについての講演等を聞いたり、親同士の情報交換や交流を図りながら、子育てや家族・家庭の大切さ、固定的役割分担意識などについて考えるセミナーを開催した。 10月2日～12月7日まで計6回、10:30～12:00、延べ26人参加、託児19人 ※親のためのセミナーⅡ～シングルマザーのお話サロン～ほっとしてイキイキ シングルマザーが子育てや自分のことについて悩み	開催時期が冬期になると、当日欠席など参加者が減少した。23年度は、時期や回数を見直す他、参加者が楽しく気軽に情報交換や交流をする機会を増やし参加者の増加を図る。

			や不安などを話し合いながら解決策を見いだしていくための交流をする機会を提供した。 2月6日～3月6まで 毎回日曜日10:00～12:00、 計3回、延べ8人参加、託児8人 3月13日は地震のため中止	
23	64千円	64千円	※親のためのセミナー I～楽しく子育て自分育ち～を開催。 ①花とハーブでリフレッシュ ②おやつ作り③子どもと本を楽しむ④子育て応援生活設計など、自分自身を振り返る学習や子育てに役立つ学習をすると共に親同士が情報交換や交流を図った。また、それぞれの講師の子育てや生き方を通して、自分らしい子育てや家族・家庭の大切さ、固定的役割分担意識などを考える機会とした。 9月7日～10月26日(5回) 10:00～12:00延べ73人参加、託児延べ47人利用 ※親のためのセミナー II～父と子の楽しいキッチン～を開催。 ①豆腐作りの巻 ②クリスマスケーキ作りの巻 12月3日、17日(2回) 男性15人、子ども16人参加 ※親のためのセミナー III～シングルマザーの子育て・仕事・暮らしセミナー～を開催。 ①子育ての中の楽しいランチ②子育て・仕事・生きること③企業側が語るビジネスの心得など、自分らしく個性や能力を発揮して輝いて生きるための学習と交流をする機会を提供した。 2月12日～26日(3回) 女性延べ9人参加、託児延べ7人利用	シングルマザー対象の参加者が少ない。広報あきた掲載の他、チラシの配布先や開催日時等を考慮し、参加者の増加を図る。
24	48千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	305 地域の教育力の向上 【重点施策】□
【現状と課題】	社会状況やライフスタイルの変化などにより、家族や地域の絆が希薄になり、これまで家族や地域が担っていた役割が低下しています。 昔は、子ども社会が地域に自然発生的に存在し、そこでの体験や人間関係が、地域社会へスムーズに受け入れられる土壌となっていました。 現在、子ども社会が自然発生的に存在することは稀なばかりか、地域社会とのつながりが希薄になるとともに、子どもの「集団」経験が乏しくなりつつあります。 様々な体験、交流、学習活動を通して、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性やたくましく生きるための健康や体力を備えた生きる力を育むための様々な活動へ支援していくとともに、家族・地域の絆を大切にする意識啓発の取組が必要です。
【施策の目標】	子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性やたくましく生きるための健康や体力を備えた生きる力を、学校、家庭、地域の連携により育みます。
【対応】	子ども会活動や世代間交流、学校施設の開放など地域における様々な活動に支援していくとともに、家庭、地域社会、学校などで子どもたちとのかかわりをこれまで以上に深めていけるよう周知、啓発に努めます。
【施策の目標指標】	<指標> ①子ども会の組織率 ②世代間交流事業の延べ参加者数 ③学校体育施設の指定開放日の使用人数 <20年度実績値> ①83% ②698人 ③19,683人 <26年度目標値> ①85% ②800人 ③22,000人
【主管課所室】	703500 教育委員会 09生涯学習室
【関係課所室】	子ども育成課、長寿福祉課、スポーツ振興課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 252000 子ども未来部 20子ども育成課

【取組・事業No.】 3051 【取組・事業名】 放課後子ども教室推進事業

【事業概要】

児童館等において、児童館運営委員会や地域のボランティア組織である児童育成クラブ等地域の様々な資質を有する多くの方々の協力を得ながら、放課後の子どもたちに健全な遊びの場、様々な体験・交流・学習の機会、安全、安心な子どもの居場所を提供する。

【事業の目標】

児童館運営委員会や児童育成クラブ等地域の方々の参画を得て、子どもたちの社会性、自主性、創造性等豊かな人間性を育てます。

【事業の目標指標】

<指標> 児童育成クラブの活動回数 <20年度実績値> 1,816回 <26年度目標値> 2,041回

【関係データ】

【関係HP】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/lf/gidoukan/gidoukan-gyouji.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	2,993 千円	児童育成クラブの活動回数2,604回	児童館運営委員会や児童育成クラブ等の協力を得ながら、児童館等で放課後子ども教室を実施する。
■ 23	3,353 千円	1,916回	〃
■ 24	4,224 千円	1,966回	〃
■ 25	4,416 千円	2,016回	〃
■ 26	4,512 千円	2,041回	〃

【事業対象の区分】

子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (地域住民)
 <子どもの対象年齢> 0 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	2,934千円	2,993千円	児童館運営委員会や児童育成クラブ等の協力を得ながら、児童館等で放課後子ども教室を実施した。 児童育成クラブ数 39クラブ 児童育成クラブの活動回数 2,604回	放課後子ども教室における交流・体験活動や、子どもたちへの指導を充実させるためには、地域の協力が不可欠であるが、協力体制がうまく機能していない子ども教室も見られることから、児童館運営委員協議会や児童育成クラブ世話人連絡協議会と協議しながら、先進的な地域協力の取組事例を紹介するなど、必要に応じて情報提供していく。 なお、22年度の活動回数は、26年度の目標値を上回っているが、活動回数にかかわらず一律で支払っていた活動謝金を、22年度から活動延べ人数により支払うこととしたことが要因と推察される。目標指標の修正については、23年度の推移を見ながら検討する。
23	3,353千円	3,004千円	児童館運営委員会や児童育成クラブ等の協力を得ながら、児童館等で放課後子ども教室を実施した。 児童育成クラブ数 38クラブ 児童育成クラブの活動回数 2,455回	活動回数や人数が地区により格差があることから、児童館運営委員協議会や児童育成クラブ世話人連絡協議会と協議しながら、先進的な地域協力の取り組みなど、必要に応じて情報提供していく。 なお、活動休止となる地区があることから、26年度の目標値の修正については活動状況を注視のうえ検討する。 (23年度末活動数 37クラブ)
24	3,514千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 252000 子ども未来部 20子ども育成課

【取組・事業No.】 3052 【取組・事業名】 子ども会世話人の活動支援

【事業概要】 子ども会世話人の組織である「秋田市子ども会育成連絡協議会」の活動を支援し、子ども会相互の交流を促進するとともに、町内会をはじめとした地域団体等との連携により、様々な体験活動機会の創出に努める。

【事業の目標】 子ども会世話人を支援し、活発な子ども会活動を推進します。

【事業の目標指標】 <指標> 組織率(47学校中39組織) <20年度実績値> 83% <26年度目標値> 85%

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	100 千円	84%	事業費補助金
■ 23	0 千円	84%	事業費補助金
■ 24	100 千円	84%	事業費補助金
■ 25	100 千円	84%	事業費補助金
■ 26	100 千円	85%	事業費補助金

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 7 歳～ 12 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	100千円	100千円	秋田市子ども会育成連絡協議会の活動を支援するため、同協議会の「2010夢と友情の旅 夏の思い出」事業に対し補助金を交付した。	子ども会相互の交流を促進するとともに地域団体等との連携により様々な体験活動の機会を創出するため、引き続き、秋田市子ども会育成連絡協議会の活動を支援していく。
23	100千円	0千円	「2011夢と友情の旅」が中止になったことや、ほかの子ども会活動の実績がなかったため、補助金を交付しなかった。	子ども会相互の交流を促進するとともに地域団体等との連携により様々な体験活動の機会を創出するため、引き続き、秋田市子ども会育成連絡協議会の活動を支援し
24	100千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 252000 子ども未来部 20子ども育成課

【取組・事業No.】 3053 【取組・事業名】 子ども会活動の表彰

【事業概要】 特に優れた活動をしている子ども会や子ども会世話人を表彰し、広く活動の奨励を図る。

【事業の目標】 子ども会活動への意識を高め、自発的活動を推進します。

【事業の目標指標】 <指標> 表彰団体等数 <20年度実績値> 9 <26年度目標値> 13

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	56 千円	4個人10団体	子ども会旗の贈呈および表彰
■ 23	82 千円	2個人2団体	子ども会旗の贈呈および表彰
■ 24	82 千円	13団体	子ども会旗の贈呈および表彰
■ 25	82 千円	13団体	子ども会旗の贈呈および表彰
■ 26	82 千円	13団体	子ども会旗の贈呈および表彰

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 7 歳 ~ 12 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	56千円	56千円	特に優れた活動をしている子ども会、子ども会世話人を表彰し、活動の奨励を図った。 奨励賞 5子ども会 優良賞 1子ども会 特別活動賞3子ども会 育成功労賞 4個人、1団体	年々会員数が減少し、行事等も少なくなってきたことから、子ども会活動への意識を高め、自発的活動を推進するため、優れた活動をしている子ども会等の表彰を継続して実施し、広く活動の奨励を図っていく。
23	82千円	57千円	特に優れた活動をしている子ども会、子ども会世話人を表彰し、活動の奨励を図った。 奨励賞 2子ども会 育成功労賞 2個人	年々会員数が減少し、行事等も少なくなってきたことから、子ども会活動への意識を高め、自発的活動を推進するため、優れた活動をしている子ども会等の表彰を継続して実施し、広く活動の奨励を図っていく。
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 3054 【取組・事業名】 子ども会リーダー研修の実施

【事業概要】

野外活動や宿泊生活を体験しながら、地域の子供会活動やグループ活動におけるリーダーとしての自覚や協調性、基礎的な知識や技術を習得する。また学校外、異年齢間の交流を体験する機会として実施することにより、協調性や社会性を育む。

【事業の目標】

自発的な子ども会活動を推進するリーダーを養成し、子ども会活動を活発化させます。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 延べ参加者数 ＜20年度実績値＞ 201人 ＜26年度目標値＞ 250人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	67 千円	188人	自発的な子ども会活動を推進するリーダーを養成する。
■ 23	67 千円	220人	自発的な子ども会活動を推進するリーダーを養成する。
■ 24	67 千円	230人	自発的な子ども会活動を推進するリーダーを養成する。
■ 25	67 千円	240人	自発的な子ども会活動を推進するリーダーを養成する。
■ 26	67 千円	250人	自発的な子ども会活動を推進するリーダーを養成する。

【事業対象の区分】

☒ 子ども ☐ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ()
 ＜子どもの対象年齢＞ 11 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	67千円	67千円	延べ参加者数188人	
23	60千円	0千円	延べ参加者数63人	少子化により子ども会活動への参加人数自体が減少しているが、活動自体を活発化させるよう研修会を実施していく。
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703500 教育委員会 09生涯学習室

【取組・事業No.】 3055 【取組・事業名】 世代間交流事業

【事業概要】

公民館において、世代間交流事業を行い、子どもが高齢者との交流を通じ、心のふれあいや相互交流を深め豊かな人間性を育むとともに、地域の伝統芸能や風習を学び、昔話や高齢者の貴重な経験談を聞く機会を提供する。

【事業の目標】

高齢者との交流を通して、子どもの豊かな人間性と生きる力を育みます。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 延べ参加者数 ＜20年度実績値＞ 698人 ＜26年度目標値＞ 800人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	119 千円	698人	異世代との交流を通して、地域の絆を深める。
■ 23	119 千円	700人	異世代との交流を通して、地域の絆を深める。
■ 24	119 千円	750人	異世代との交流を通して、地域の絆を深める。
■ 25	119 千円	750人	異世代との交流を通して、地域の絆を深める。
■ 26	119 千円	800人	異世代との交流を通して、地域の絆を深める。

【事業対象の区分】

☐ 子ども ☐ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☒ 他の区分
 ＜子どもの対象年齢＞ 歳～ 歳 （全世代）

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	170千円	119千円	公民館・市民サービスセンターにおいて、子どもから高齢者までが一緒に活動する世代間交流会を実施した。延べ参加者数698人	異世代間の交流により、地域の連携意識の高揚を図るため、事業の充実につとめる。
23	160千円	176千円	公民館・市民サービスセンターにおいて、子どもから高齢者までが一緒に活動する世代間交流会を実施した。延べ参加者数945人	異世代間の交流により、地域の連携意識の高揚を図るため、事業の充実につとめる。
24	165千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 205000 福祉保健部 50長寿福祉課

【取組・事業No.】 3056 【取組・事業名】 老人保健福祉月間における小学生の取組

【事業概要】

小学生が、老人保健福祉月間にちなんだ敬老標語づくりを行うことで、子どもたちが長寿社会と自らが果たすべき役割について考えるための機会を設ける。
また、子どもたちが自らの立場で長寿社会について考える機会をつくるため、老人福祉月間啓発用リーフレットなどを市内の各小学校へ配付し、周知する。

【事業の目標】

心豊かな社会、福祉のまちづくりを進めるため、高齢者について考える機会を提供します。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 作品応募数 ＜20年度実績値＞ 3小学校から60作品の応募 ＜26年度目標値＞ 3小学校から60作品の応募

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	252 千円	3小学校から60作品の応募	学校教育課推薦小学校から募集
■ 23	316 千円	3小学校から60作品の応募	学校教育課推薦小学校から募集
■ 24	316 千円	3小学校から60作品の応募	学校教育課推薦小学校から募集
■ 25	316 千円	3小学校から60作品の応募	学校教育課推薦小学校から募集
■ 26	316 千円	3小学校から60作品の応募	学校教育課推薦小学校から募集

【事業対象の区分】

子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
 ＜子どもの対象年齢＞ 6 歳～ 11 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	281千円	252千円	3小学校から60作品の応募	22年度までは主な周知方法としてリーフレットの作成の他、市庁舎へ看板を掲示していたが、23年度より取りやめるため、より効果的な周知方法の検討が必要である。
23	316千円	274千円	3小学校から60作品の応募	23年度は主な周知方法としてポスターとメモ帳を作成し福祉施設等へ配布した。24年度は周知に際し、より効果的なリーフレットの作成が必要である。
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703000 教育委員会 08スポーツ振興課

【取組・事業No.】 3057 【取組・事業名】 総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成

【事業概要】 秋田県広域スポーツセンターとの連携により、総合型地域スポーツクラブの設立と既存クラブの育成を支援する。

【事業の目標】 既存のクラブの活動が地域で広まるように支援するとともに、クラブが設立されていない2地区へも設立を働きかけます。

【事業の目標指標】 <指標> 総合型地域スポーツクラブ数 <20年度実績値> 9 <26年度目標値> 11

【関係データ】

【関係HP】 <http://www.pref.akita.jp/taiiku/akispo/life/whats.html>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	11クラブ	啓蒙活動、助言など
■ 23	0 千円	11クラブ	啓蒙活動、助言など
■ 24	0 千円	11クラブ	啓蒙活動、助言など
■ 25	0 千円	11クラブ	啓蒙活動、助言など
■ 26	0 千円	11クラブ	啓蒙活動、助言など

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (子どもを含めた地域住民)
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	新たなクラブを加え、全部で11のクラブが設立された。	クラブの設立地域に偏りがあり、また、地域との結びつきが少ないクラブもある。23年度は、県と連携を図り、モデル事業に指定されたクラブを中心とした地域の活性化、健康づくりを支援する。
23	0千円	0千円	県との共催で、総合型地域スポーツクラブを核とした地域活性化事業(28回、970人の参加)を開催した。	23年度は、設立されたクラブがないため、引き続き県と連携をはかり、設立にむけた活動を行っていく。また、地域の活性化、健康づくり事業など実施しているクラブに対し、支援を行っていく。
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 703000 教育委員会 08スポーツ振興課

【取組・事業No.】 3058 【取組・事業名】 学校体育施設の開放事業

【事業概要】

身近な学校体育施設を利用して市民の健康・体力の保持増進を図るため、市立小中学校の体育館およびグラウンドを学校教育に支障のない範囲で地域住民のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に開放する。

【事業の目標】

効率的な利用を促進し、多くの市民が身近な学校体育施設を活用し、健康・体力づくりに取り組めるようにします。

【事業の目標指標】

<指標> 指定開放日の使用人数 <20年度実績値> 19,683人 <26年度目標値> 22,000人

【関係データ】

【関係HP】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/sp/sinnkou/kaihou.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	2,601 千円	18,203人	管理指導員謝金、用具の更新など
■ 23	3,983 千円	19,150人	管理指導員謝金、用具の更新など
■ 24	4,886 千円	20,100人	管理指導員謝金、用具庫の設置、用具の更新など
■ 25	4,886 千円	21,050人	管理指導員謝金、用具庫の設置、用具の更新など
■ 26	4,886 千円	22,000人	管理指導員謝金、用具庫の設置、用具の更新など

【事業対象の区分】

子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (子どもを含めた地域住民)
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	3,076千円	2,601千円	42校で指定開放を実施し、18,203人の利用があった。団体登録では45校で513,871人の利用があった。	指定開放を実施しても、参加者が少ない地域があった。23年度から第3日曜日のサンサンデー学校開放もスポーツ興課で実施することになっており、開放時のスポーツ教室の実施等により、各地区で学校体育施設の開放事業の周知を図る。
23	3,983千円	2,144千円	指定開放は、43校で10,471人の利用、団体登録では45校で367,969人の利用があった。	節電等の関係により、開放回数を減らした影響もあり、利用者数は減少しているが、開放事業については、地域によって利用者数にばらつきがある。今後は、地域住民等が気軽に参加できるようなスポーツ教室を実施するなど、事業の見直し等をはかっていく。
24	3,485千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組めます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	306 信頼される学校づくり、開かれた学校づくり 【重点施策】□
【現状と課題】	開かれた学校づくりのため、国では学校評議員制度を推進しているところではありますが、本市では、これに類似するものとして、学校教育懇談員を設置し、学校、家庭、地域社会が一体となった教育の推進に努めております。今後も、学校教育懇談員の活用をさらに推し進め、幅広い経験に基づく専門的な知識等を、学校運営に生かしていく必要があります。また、通学区制度においては、子どもや保護者の実情に配慮し、学校選択機会の拡充が求められております。
【施策の目標】	保護者や地域住民の意向を学校づくりに反映させるために、学校教育懇談員の活用を進めます。 また、通学区制度の運用に当たっては、子どもや保護者の多様な実情にできるだけ配慮します。
【対応】	信頼される学校づくり、開かれた学校づくりのために、学校教育懇談員の活用を進めます。また、子どもや保護者の多様な実情に応じ、指定校以外の学校を弾力的に選択できる機会を設けます。
【施策の目標指標】	＜指標＞ 学校教育懇談員の年間活用回数 ＜20年度実績値＞ 平均2.5回 ＜26年度目標値＞ 平均2.8回
【主管課所室】	701500 教育委員会 15学校教育課
【関係課所室】	学事課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 3061 【取組・事業名】 学校教育懇談員活用事業

【事業概要】 市内小中学校を、中央、東、西、北、南、河辺、雄和の7ブロックに分け、ブロックごとに学校教育懇談員を委嘱し、各校長の求めに応じて、学校運営等についての助言等をもらう。

【事業の目標】 学校教育懇談員から、特色ある教育活動や地域・保護者との連携のあり方など、学校運営についての意見や助言等を得ることにより、開かれた学校づくりを推進します。

【事業の目標指標】 <指標> 1校あたりの活用回数 <20年度実績値> 2.5回 <26年度目標値> 2.8回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	938 千円	1校あたりの活用回数2.6回	学校教育懇談員の委嘱と活用
■ 23	938 千円	1校あたりの活用回数2.6回	学校教育懇談員の委嘱と活用
■ 24	938 千円	1校あたりの活用回数2.7回	学校教育懇談員の委嘱と活用
■ 25	938 千円	1校あたりの活用回数2.7回	学校教育懇談員の委嘱と活用
■ 26	938 千円	1校あたりの活用回数2.8回	学校教育懇談員の委嘱と活用

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (小中学校)
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	952千円	938千円	1校あたりの活用回数2.6回、活用人数は6.6人であった。	各校の実情に応じた活用が図られるよう、運用の工夫について周知していく。
23	938千円	924千円	1校あたりの活用回数2.6回、活用人数は6.6人であった。	学校各校の実情に応じた活用が図られるよう、運用の工夫について周知していく。
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701000 教育委員会 030学事課

【取組・事業No.】 3062 【取組・事業名】 通学区域の弾力化

【事業概要】 児童生徒の様々な実情に応じ、保護者の意向に配慮した学校選択機会を拡大するため、通学区域の弾力的な運用を行う。

【事業の目標】 教育的な配慮に基づく指定学校以外の学校への就学に向けた処理を適正に行います。

【事業の目標指標】 <指標> 適正処理率 <20年度実績値> 100% <26年度目標値> 100%

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	適正な処理	保護者の意向を配慮した、通学区域の弾力的な運用を行う。
■ 23	0 千円	適正な処理	保護者の意向を配慮した、通学区域の弾力的な運用を行う。
■ 24	0 千円	適正な処理	保護者の意向を配慮した、通学区域の弾力的な運用を行う。
■ 25	0 千円	適正な処理	保護者の意向を配慮した、通学区域の弾力的な運用を行う。
■ 26	0 千円	適正な処理	保護者の意向を配慮した、通学区域の弾力的な運用を行う。

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳 ~ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	審査会の開催回数16回	
23	0千円	0千円	審査会の開催回数15回	
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	307 特別な支援を要する子どもへの支援 【重点施策】■
【現状と課題】	子どもを取り巻く環境が変化している中、経済的な理由により就学が困難となっている児童生徒、学校不適応等により不登校となっている児童生徒、障がいにより教育上特別な支援を必要とする児童生徒等が増加傾向にあることから、個々のニーズに対応する教育の充実が求められています。
【施策の目標】	児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援の充実を図ります。
【対応】	様々な事由により、特別な支援を要する児童生徒一人ひとりに対応した諸施策を実施することにより、子どもの自立を支援します。
【施策の目標指標】	＜指標＞ ①不登校児童生徒への支援～個々に応じた支援により、好ましい変化が見られる。 ②障がいのある児童生徒への支援～個々に応じた支援の充実を図るため事業を拡充する。 ＜20年度実績値＞ ①適応指導教室による好ましい変化8名(28%)、フレッシュフレンドによる好ましい変化8名(66%) ②学校行事等支援サポーター延べ114人、学校生活支援サポーター延べ58人、日本語指導支援サポーター延べ11人 ＜26年度目標値＞ ①適応指導教室による好ましい変化40%、フレッシュフレンドによる好ましい変化70% ②学校行事等支援サポーター延べ150人、学校生活支援サポーター延べ90人、日本語指導支援サポーター延べ12人
【主管課所室】	701500 教育委員会 15学校教育課
【関係課所室】	学事課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701000 教育委員会 030学事課

【取組・事業No.】 3071 【取組・事業名】 小・中学校就学奨励事業

【事業概要】 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒(特別支援学級に通学する児童生徒含む)の保護者に対し、必要な援助を行う。

【事業の目標】 学校教育法の規定に基づき、就学困難な児童生徒の保護者へ必要な援助を行うことにより、すべての学齢児童生徒に対し義務教育を保証します。

【事業の目標指標】 <指標> 適正な援助率 <20年度実績値> 100% <26年度目標値> 100%

【関係データ】

【関係HP】 学事課HP
<http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/sw/default.htm>

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	286,895 千円	適正な援助	就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行う。
■ 23	330,739 千円	適正な援助	就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行う。
■ 24	349,901 千円	適正な援助	就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行う。
■ 25	349,901 千円	適正な援助	就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行う。
■ 26	349,901 千円	適正な援助	就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行う。

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	302,512千円	286,895千円	認定者数3,268人	
23	330,739千円	307,431千円	認定者数3,436人	
24	349,901千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701000 教育委員会 030学事課

【取組・事業No.】 3072 【取組・事業名】 小・中学校特別支援学級新設経費

【事業概要】 新設される特別支援学級において、児童生徒の障がいに対応した教育を行うために必要な備品を購入する。

【事業の目標】 新設される特別支援学級に必要な備品を購入することで、児童生徒の障がいに対応した教育を行います。

【事業の目標指標】 <指標> 適正な整備 <20年度実績値> 1,204千円 <26年度目標値> 602千円

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	509 千円	適正な整備	障がいに対応した教育を行うに必要な備品を購入する
■ 23	602 千円	適正な整備	障がいに対応した教育を行うに必要な備品を購入する
■ 24	1,072 千円	適正な整備	障がいに対応した教育を行うに必要な備品を購入する
■ 25	1,072 千円	適正な整備	障がいに対応した教育を行うに必要な備品を購入する
■ 26	1,072 千円	適正な整備	障がいに対応した教育を行うに必要な備品を購入する

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	672千円	509千円	小学校 4校 5学級 中学校 6校 6学級	
23	602千円	273千円	小学校 2校 2学級 中学校 2校 2学級	
24	1,072千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 3073 【取組・事業名】 適応指導センター「すくうる・みらい」運営事業

【事業概要】 適応指導教室「すくうる・みらい」を中心に、不登校児童生徒およびその保護者に対する支援を行う。

【事業の目標】 不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援の充実を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 不登校児童生徒の好ましい変化(学校復帰、復帰傾向)の割合 ①適応指導教室通級生の好ましい変化 ②フレッシュフレンド派遣による好ましい変化 <20年度実績値> ①8名(28%) ②8名(66%) <26年度目標値> ①40% ②70%

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	2,456 千円	①4名(26.7%)②6名(50.0%)	適応指導教室運営、フレッシュフレンド派遣、宿泊体験活動など
■ 23	3,029 千円	①30%②60%	適応指導教室運営、フレッシュフレンド派遣、宿泊体験活動など
■ 24	3,029 千円	①30%②60%	適応指導教室運営、フレッシュフレンド派遣、宿泊体験活動など
■ 25	3,029 千円	①35%②65%	適応指導教室運営、フレッシュフレンド派遣、宿泊体験活動など
■ 26	3,029 千円	①40%②70%	適応指導教室運営、フレッシュフレンド派遣、宿泊体験活動など

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒ ☒ (小中学校)
 <子どもの対象年齢> 6歳～15歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	3,189千円	2,456千円	①在籍児童生徒15人のうち、1人が学校復帰し、3人に復帰傾向が見られた。②対象児童生徒12人のうち、2人が学校復帰し、4人に復帰傾向が見られた。	不登校の状況は児童生徒により様々であり、その改善傾向についても同様ではない。今後も、保護者や在籍校の教職員との連携を深めながら、一人一人の状況に応じた適切な支援に努める必要がある。
23	3,029千円	2,469千円	①在籍児童生徒19人のうち、1人が学校復帰し、5人に復帰傾向が見られた。②対象児童生徒10人のうち、2人に復帰傾向がみられた。	不登校の要因は、その児童生徒により、多様であることから、今後も、本人と保護者の要望や意向に添いつつ、適切な支援の継続に努めていく必要がある。
24	2,935千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 3074 【取組・事業名】 特別支援教育推進事業

【事業概要】 障がいのある児童生徒が学校行事や校外学習に参加する際、「学校行事等支援サポーター」を、通常の学級に在籍する障がいのある児童生徒に「学級生活支援サポーター」を、国籍を問わず、日本語の理解が十分でない児童生徒に「日本語指導支援サポーター」を派遣する。

【事業の目標】 特別な支援を必要とする児童生徒の一人ひとりの状況に応じた支援の充実を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 各校からの要望に応えながら事業を拡充する。①学校行事等支援サポーター数 ②学級生活支援サポーター数 ③日本語指導支援サポーター数 <20年度実績値> ①延べ114人 ②延べ58人 ③延べ11人 <26年度目標値> ①延べ150人 ②延べ90人 ③延べ12人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	1,123 千円	①延べ142人②延べ100人③延べ11人	学校行事等支援、学級生活支援、日本語指導支援（事業費については学校行事等支援のみ。学級生活支援および日本語指導支援については人件費）
■ 23	1,327 千円	①延べ150人②延べ90人③延べ12人	学校行事等支援、学級生活支援、日本語指導支援（事業費については学校行事等支援のみ。学級生活支援および日本語指導支援については人件費）
■ 24	1,327 千円	①延べ150人②延べ90人③延べ12人	学校行事等支援、学級生活支援、日本語指導支援（事業費については学校行事等支援のみ。学級生活支援および日本語指導支援については人件費）
■ 25	1,327 千円	①延べ150人②延べ90人③延べ12人	学校行事等支援、学級生活支援、日本語指導支援（事業費については学校行事等支援のみ。学級生活支援および日本語指導支援については人件費）
■ 26	1,327 千円	①延べ150人②延べ90人③延べ12人	学校行事等支援、学級生活支援、日本語指導支援（事業費については学校行事等支援のみ。学級生活支援および日本語指導支援については人件費）

【事業対象の区分】 子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☒ （小中学校）
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,214千円	1,123千円	①小中学校31校を対象に延べ142人の学校行事支援サポーターを派遣した。②小中学校52校、271人の児童生徒を対象に、延べ100人の学級生活支援サポーターを派遣した。③小中学校7校、11人の児童生徒を対象に、延べ11人の日本語指導支援サポーターを派遣した。	児童生徒の障がいの複雑化や保護者の教育的ニーズの多様化に伴い、一人一人の状況に応じた適切な支援を行うことができるよう、サポーター研修会の改善を図るなど、事業の充実に努める。
23	1,327千円	1,232千円	①小中学校30校を対象に延べ161人の学校行事支援サポーターを派遣した。②小中学校校、321人の児童生徒を対象に、延べ98人の学級生活支援サポーターを派遣した。③小中学校13校、19人の児童生徒を対象に、延べ12人の日本語指導支援サポーターを派遣した。	児童生徒の障がいの複雑化や保護者の教育的ニーズの多様化に伴い、一人一人の状況に応じた適切な支援を行うことができるよう、引き続き、サポーター研修会の改善を図るなど、事業の充実に努める。

			童生徒を対象に、延べ12 人の日本語指導支援サ ポーターを派遣した。	
24	1,429千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-1 子どもの育成
【施策名】	308 青少年の健全育成活動の推進 【重点施策】□
【現状と課題】	少子高齢化、情報化、国際化等が進行し、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。青少年に対する有害図書等の販売、貸し付け、テレビやインターネット等での有害情報のまん延など青少年への悪影響が懸念される状況にあり、少年による社会に衝撃を与える事件が後を絶ちません。 青少年の健全育成を図るうえで、社会環境の及ぼす影響は極めて大きいことから、社会全体でより良い環境づくりに取り組む必要があります。 次代を担う青少年を健全に育成することは、社会全体の責務であることをそれぞれが認識し、地域が一体となって子どもを取り巻く有害環境の浄化に取り組んでいく必要があります。
【施策の目標】	青少年が豊かな心と知性あふれる社会人として成長するよう、より良い環境づくりを推進します。
【対応】	市民全体への意識啓発や関係機関等と連携し指導活動などを行います。
【施策の目標指標】	＜指標＞ ①広報啓発活動の実施回数 ②巡視回数 ＜20年度実績値＞ ①5回 ②72回 ＜26年度目標値＞ ①5回 ②70回
【主管課所室】	251000 子ども未来部 00子ども総務課
【関係課所室】	学校教育課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 701500 教育委員会 04学校教育課

【取組・事業No.】 3081 【取組・事業名】 情報モラル指導の充実

【事業概要】 各校が、計画的に情報モラルの指導を行うために、指導実践例や発達段階に応じた授業資料を提供する。

【事業の目標】 各校に、発達段階に応じた情報モラル指導の資料を提供します。

【事業の目標指標】 <指標> 適切な資料の提供 <20年度実績値> 生徒指導連絡協議会や教職員研修会で提供するとともに、教育研究所HPに掲載 <26年度目標値> 資料の更新などを図りながら各校に提供する

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	0 千円	資料の作成・提供	情報モラル指導資料の提供
■ 23	0 千円	資料の作成・提供	情報モラル指導資料の提供
■ 24	0 千円	資料の作成・提供	情報モラル指導資料の提供
■ 25	0 千円	資料の作成・提供	情報モラル指導資料の提供
■ 26	0 千円	資料の作成・提供	情報モラル指導資料の提供

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☒ (小中学校)
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 15 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	0千円	0千円	小中の連携を図った情報モラル指導や仮想携帯機能を活用した実践例などの指導資料を作成し、各校に提供するとともに、教育研究所HPに掲載した。	ネットトラブルの未然防止とトラブル発生時の適切な対応を図るために、作成した資料をもとに教職員研修や学校訪問指導などをおして、各校に指導する。
23	0千円	0千円	情報教育主任研修会や小中の連携を図った情報モラル指導をおし、トラブル発生時の対応や子どもに身に付けさせたい資質や能力について指導した。	引き続き、ネットトラブルの未然防止とトラブル発生時の適切な対応を図るために、作成した資料をもとに教職員研修や学校訪問指導などをおして、各校に指導する。
24	0千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251200 子ども未来部 1003少年指導センター

【取組・事業No.】 3082 【取組・事業名】 有害環境対策

【事業概要】 関係機関、団体との連携により、有害図書類等自動販売機の撤去やインターネットカフェ、カラオケボックス等青少年の非行防止のための啓発活動を行う。

【事業の目標】 青少年が豊かな心と知性あふれる社会人として成長するよう、より良い環境づくりを推進します。

【事業の目標指標】 <指標> 広報啓発活動の実施回数 <20年度実績値> 5回 <26年度目標値> 5回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	100 千円	5回	広報啓発活動の実施
■ 23	100 千円	5回	広報啓発活動の実施
■ 24	100 千円	5回	広報啓発活動の実施
■ 25	100 千円	5回	広報啓発活動の実施
■ 26	100 千円	5回	広報啓発活動の実施

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	100千円	100千円	5回	広報啓発活動の実施した。
23	100千円	100千円	5回	広報啓発活動の実施した。
24	100千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251200 子ども未来部 1003少年指導センター

【取組・事業No.】 3083 【取組・事業名】 環境浄化活動

【事業概要】 青少年に有害な図書、ビデオ等自動販売機の調査や情報交換を行い、関係機関・団体との連携を図りながら、環境浄化活動を行う。

【事業の目標】 青少年に有害な図書、ビデオ等の自動販売機が秋田市内全域に見られるため、少年指導委員および地域の関係機関との連携を行い環境浄化活動を行います。

【事業の目標指標】 <指標> 巡視回数 <20年度実績値> 72回 <26年度目標値> 70回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	653 千円	56回	各9地域巡回活動
■ 23	680 千円	60回	各9地域巡回活動
■ 24	680 千円	65回	各9地域巡回活動
■ 25	680 千円	65回	各9地域巡回活動
■ 26	680 千円	70回	各9地域巡回活動

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	680千円	653千円	56回	地域巡回活動
23	680千円	573千円	59回	地域巡回活動
24	680千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251200 子ども未来部 1003少年指導センター

【取組・事業No.】 3084 【取組・事業名】 街頭巡回指導

【事業概要】

市で委嘱している少年指導委員が、少年非行の未然防止を図るため、秋田駅周辺や千秋公園を定期的に巡回するほか、市内を9地区に分けてそれぞれの地域の実情に応じた巡回を行う。
さらに、少年非行に関する研修会の開催や、広報活動、各種キャンペーン活動のほか、中学校総合体育大会や土崎港曳山まつり、竿燈まつりをはじめとした各種イベント時には、特別巡回を行う。

【事業の目標】

青少年の規範の確立と健全育成のために市民による地域ぐるみのサポート体制を確立します。

【事業の目標指標】

<指標> 巡回指導回数 <20年度実績値> 117回 <26年度目標値> 150回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	1,261 千円	100回	巡回指導
■ 23	1,361 千円	110回	巡回指導
■ 24	1,361 千円	120回	巡回指導
■ 25	1,361 千円	130回	巡回指導
■ 26	1,361 千円	150回	巡回指導

【事業対象の区分】

子ども ☒ 若者 ☒ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	1,361千円	1,216千円	100回	定例街頭巡回、特別巡回、地区巡回指導
23	1,361千円	1,093千円	104回	定例街頭巡回、特別巡回、地区巡回指導
24	1,361千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251200 子ども未来部 1003少年指導センター

【取組・事業No.】 3085 【取組・事業名】 少年相談活動

【事業概要】 相談専用電話「わかくさ相談電話」を設置し、青少年に関わるいろいろな悩みや心配事に専任の相談員が応じるほか、面談も行う。

【事業の目標】 青少年が抱える問題や悩みの早期発見、早期解決を図ります。

【事業の目標指標】 <指標> わかくさ相談電話件数 <20年度実績値> 28件 <26年度目標値> 120件

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	30 千円	32件	わかくさ相談電話
■ 23	30 千円	40件	わかくさ相談電話
■ 24	30 千円	50件	わかくさ相談電話
■ 25	30 千円	80件	わかくさ相談電話
■ 26	30 千円	120件	わかくさ相談電話

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	30千円	30千円	32件	専任の相談員が応じるほか、面談も行う。
23	30千円	30千円	29件	専任の相談員が応じるほか、面談も行う。
24	30千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251200 子ども未来部 1003少年指導センター

【取組・事業No.】 3086 【取組・事業名】 青少年健全育成広報活動

【事業概要】 青少年健全育成に関する情報を提供するほか、少年指導センターの活動を紹介する。

【事業の目標】 青少年健全育成に対する家庭や地域の取組を支援します。

【事業の目標指標】 <指標> 広報啓発回数 <20年度実績値> 9回 <26年度目標値> 5回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	45 千円	3回	わかくさ発行、地域の広報発行
■ 23	58 千円	3回	
■ 24	58 千円	3回	
■ 25	58 千円	4回	
■ 26	58 千円	5回	

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	58千円	45千円	3回	わかくさ発行、地域の広報発行
23	58千円	45千円	3回	わかくさ発行、地域の広報発行
24	58千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251200 子ども未来部 1003少年指導センター

【取組・事業No.】 3087 【取組・事業名】 地区少年指導委員会活動

【事業概要】 市内9地区に分けて少年指導委員会を組織し、少年指導委員の資質や指導技術の向上を図るための研修会を開催するほか、各地区の関係機関・団体との連携・協力体制を構築する。

【事業の目標】 少年指導委員の自主活動を推進し、地域の実情に即した活動を展開します。

【事業の目標指標】 <指標> 研修会の回数 <20年度実績値> 12回 <26年度目標値> 18回

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	12 千円	11回	9地区研修会、合同研修会の実施
■ 23	12 千円	12回	9地区研修会、合同研修会の実施
■ 24	12 千円	13回	9地区研修会、合同研修会の実施
■ 25	12 千円	15回	9地区研修会、合同研修会の実施
■ 26	12 千円	18回	9地区研修会、合同研修会の実施

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☒ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 6 歳～ 17 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	12千円	12千円	11回	9地区研修会、合同研修会の実施
23	12千円	12千円	11回	9地区研修会、合同研修会の実施
24	12千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組めます。
【施策群名】	3-2 若者への支援
【施策名】	309 若者の自立支援 【重点施策】■
【現状と課題】	景気の低迷により各企業では新卒採用を手控えている状況にあります。高校生の就職についても、その影響を受け厳しくなっています。このような状況を受け、各高校においても企業訪問を行い求人開拓を行っています。 また、若年者の就職状況も厳しく、職業を持たない若者が増えている状況です。
【施策の目標】	就職を希望する高校生に、職業観の醸成や就職に対する明確な目標を持たせ、ひとりでも多くの就職を実現させます。 また、若者についても就職に向かう意識付けをし、就職につなげます。
【対応】	自分にあった職種の見つけ方、就職に必要な技術等を習得させるための講座等を行う。
【施策の目標指標】	＜指標＞ 高校生就職率（ハローワーク提供データ（ハローワーク秋田管内）） ＜20年度実績値＞ 99% ＜26年度目標値＞ 100%
【主管課所室】	357000 商工部 15商工労働課
【関係課所室】	障がい福祉課、介護保険課、福祉総務課

取組・事業検証シート

【部局課所室】 357000 商工部 15商工労働課

【取組・事業No.】 3091 【取組・事業名】 高校生就職支援事業

【事業概要】 就職を目指す高校生を対象に、就職の状況や職業観の醸成を図るとともに必要な知識等を習得させ、就職を実現させる。

【事業の目標】 スキルアップなどにより即戦力となり得る高校生を育成し、就職率100%を達成します。

【事業の目標指標】 <指標> 高校生就職率 <20年度実績値> 99% <26年度目標値> 100%

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	3,342 千円	96.6%	高校3年生向け講座、高校2年生向け講座
■ 23	3,807 千円	100%	高校3年生向け講座、高校2年生向け講座
■ 24	3,807 千円	100%	高校3年生向け講座、高校2年生向け講座
■ 25	3,807 千円	100%	高校3年生向け講座、高校2年生向け講座
■ 26	3,807 千円	100%	高校3年生向け講座、高校2年生向け講座

【事業対象の区分】 子ども ☐ 若者 ☒ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
<子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	3,807千円	3,342千円	高校3年生向け講座:9校13講座317人受講、高校2年生向け講座:7校7講座395人受講	
23	3,807千円	2,064千円	高校3年生向け講座:7校13講座353人受講、高校2年生向け講座:9校7講座461人受講	より早い時期から職業観の醸成を図るため、24年度からは新たに、高校1年生向け講座も実施する
24	7,142千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 357000 商工部 15商工労働課

【取組・事業No.】 3092 【取組・事業名】 若年者就業能力向上支援事業

【事業概要】 未就職の高校新卒者等が、企業で実務的な研修を行い就職に結びつける。また、若年求職者が就職に必要な資格取得の費用や企業の労働者が業務に必要な資格を取得するための費用を補助する。

【事業の目標】 企業で実務的な研修を行うことにより、就職意欲を高め、就職に結びつける。就職や業務に必要な資格取得費用を補助することにより、資格取得の意欲を高め、就職に結びつけるとともに、企業の人材育成を図る。

【事業の目標指標】 <指標> 研修生および資格取得者数 <20年度実績値> - <26年度目標値> 100人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	10,000 千円	64人	資格取得を促進するセミナーの実施、資格を取得した若年者に対して補助金を交付し、就職に繋げる。
■ 23	5,000 千円	70人	資格を取得した若年者に対して補助金を交付し、就職に繋げる。
□ 24	千円		
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	10,000千円	2,941千円	64人	
23	3,150千円	3,150千円	64人	24年度から対象者を求職者に限定する
24	2,000千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 357000 商工部 15商工労働課

【取組・事業No.】 3093 【取組・事業名】 若者の自立支援

【事業概要】

社会的自立に困難を抱える若者に就労や社会参加の機会を与えると同時に、地域社会においてこのような若者を支える体制づくりをするための「若者の自立支援セミナー」を開催する。
また、就労に意欲のある若者に対しては、就職に必要な知識等を身につけるための講座を受講してもらう。

【事業の目標】

地域や企業等において若者を支える体制をつくるための周知・啓発が必要であり、そのための「若者の自立支援セミナー」を充実させます。

【事業の目標指標】

＜指標＞ セミナー参加者数 ＜20年度実績値＞ 150人 ＜26年度目標値＞ 200人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	235 千円	101人	県及び関係団体と若者の自立支援セミナーを開催する。
■ 23	235 千円	130人	県および関係団体と若者の自立支援講演会を開催する。
■ 24	235 千円	160人	県および関係団体と若者の自立支援講演会を開催する。
■ 25	235 千円	180人	県および関係団体と若者の自立支援講演会を開催する。
■ 26	235 千円	200人	県および関係団体と若者の自立支援講演会を開催する。

【事業対象の区分】

子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☒ ☐ ☐ ☒ ☒ ☒ (地域ボランティア)
 ＜子どもの対象年齢＞ 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	235千円	120千円	101名参加	
23	235千円	123千円	80名参加	講演会の周知を図る
24	185千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 207000 福祉保健部 70介護保険課

【取組・事業No.】 3094 【取組・事業名】 介護雇用プログラム推進事業

【事業概要】 介護事業者等が、市との委託契約により離職失業者等を有期雇用契約労働者（1年以内の契約を更新し、最長2年間）として雇い入れ、介護施設等で働きながら介護資格（介護福祉士又はホームヘルパー2級）取得のための養成講座を受講できるようにする。

【事業の目標】 介護施設等（障害福祉施設含む。）で働きながら養成機関に通い、介護資格を取得することで、離職失業者等に対して次の雇用までの短期の雇用・就業機会を創出します。

【事業の目標指標】 <指標> 資格取得者数 <20年度実績値> - <26年度目標値> 62人

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	59,658 千円	14人	介護施設等で働きながら介護資格を取得するよう委託する。
■ 23	73,847 千円	54人	介護施設等で働きながら介護資格を取得するよう委託する。
■ 24	73,847 千円	62人	介護施設等で働きながら介護資格を取得するよう委託する。
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	163,212千円	59,658千円	ヘルパー資格取得14人	
23	73,847千円	56,930千円	ヘルパー資格取得9人 介護福祉士資格取得9人	
24	16,921千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 201000 福祉保健部 10福祉総務課

【取組・事業No.】 3095 【取組・事業名】 修学一時資金緊急支援金交付事業

【事業概要】

秋田市に居住する者又はその子弟が大学等に入学する際の入学金・支度金などの一時的費用を、秋田市内の金融機関から借りた場合に、利子補給金を交付するとともに、生活福祉資金等を利用している世帯へ一定額の給付を行う。なお、その額は、どちらも10万円を上限とする。

【事業の目標】

進学等に伴う経済的負担の軽減を図り、若年者の就業につながる進学を支援する。

【事業の目標指標】

<指標> 支援金交付者数 <20年度実績値> - <26年度目標値> 660人

【関係データ】

【関係HP】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/wf/mn/shugaku.htm>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
■ 22	4,103 千円	78人	申請に基づき、利子補給金または給付金を給付する。
■ 23	6,662 千円	91人	申請に基づき、利子補給金または給付金を給付する。
■ 24	5,574 千円	161人	申請に基づき、利子補給金または給付金を給付する。
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】

子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☒ ☐ ☐ ☒ ☒ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	25,851千円	4,103千円	給付実績は、利子補給金が1件、給付金が38件であった。	利子補給金の交付については、制度設計時に対象者数を230件と見込んでいたが、実際には市内の教育ローンを借り入れる者は所得を加味しなくても全体で200件程度であることが明らかになった。従って、申込実績は概ね実態に即した数値と考えられることから、利用者から一定の評価を得ている給付金とともに、申込実績に合わせた予算額に圧縮する。
23	6,662千円	1,635千円	給付実績は、利子補給金が2件、給付金が11件であった。	本事業は、当初時限的制度(2年限りと想定)としていたことから、今後、国の動向や経済状況を踏まえ、毎年度、事業継続の必要性を検討していく。
24	5,574千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

施策管理シート

【章】	3 次代の親の育成
【基本目標】	子どもを心身ともに健やかに育成するとともに、若者の就業や結婚を応援することで、次代の親の育成に取り組みます。
【施策群名】	3-2 若者への支援
【施策名】	310 若者同士の交流機会の拡大 【重点施策】■
【現状と課題】	「婚活」という言葉に象徴されるように、「結婚したい」と考えていても結婚に至らない人が増えてきています。50歳で一度も結婚したことがない人の割合である「生涯未婚率」は上昇の一途をたどっており、とりわけ男性は7人に1人が一度も結婚したことがないとされています。原因として、個々のライフスタイルが大きく変容したことや、近年の傾向として若者の経済基盤が脆弱になっていることなど、様々な要因が想定されますが、過去の本市アンケート調査の結果によると、「理想とする条件の相手とめぐりあわないから」「交際をスタートするチャンス、出会いが少ないから」などを理由に挙げている人も多い状況です。 このような中、秋田県では、平成21年8月より、民間で主催する男女の交流イベント等をメールマガジン登録者に情報提供する「すこやかあきた出会い応援事業」を開始しました。この取組は、「結婚したい」と考えている人たちのきっかけづくりや社会全体でそのような若者を応援する気運を醸成するといった効果が期待できるものと考えられます。 今後、結婚を望む人たちがその願いに近づくことができるように、企業や市民、行政が一体となって、若者を応援する取組を推進する必要があります。
【施策の目標】	結婚に対する希望が実現されるように、市民との協働により、若者同士の交流機会の拡大を図ります。
【対応】	県「すこやかあきた出会い応援事業」と連携し、「若者の若者による若者のための」交流事業を行います。 若い世代のまちづくりの担い手を育てるため、秋田駅周辺での新たなまちづくりイベントに助成します。
【施策の目標指標】	＜指標＞ 参加者満足度 ＜20年度実績値＞－ ＜26年度目標値＞ 100%
【主管課所室】	251000 子ども未来部 10子ども総務課
【関係課所室】	まちづくり整備室、企画調整課、大森山動物園

取組・事業検証シート

【部局課所室】 251000 子ども未来部 10子ども総務課

【取組・事業No.】 3101 【取組・事業名】 若者が創る出会いの場応援事業

【事業概要】 若者を中心とした実行委員会で、本市の地域資源を活用した若者同士の交流の場を企画し、交流の輪を広げる活動を行う。

【事業の目標】 若者の若者による若者のためのイベントを開催し、若者同士の交流の輪を広げます。

【事業の目標指標】 <指標> 参加者満足度 <20年度実績値> - <26年度目標値> 100%

【関係データ】

【関係HP】 ●「すこやか出会い応援事業」→
<http://common.pref.akita.lg.jp/deai-ouen/>

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	930 千円	①参加者数160人 ②満足度80%	実行委員会の募集、イベント開催(2回)
■ 23	1,703 千円	①参加者数160人 ②満足度90%	実行委員会の募集、イベント開催(2回)
■ 24	1,703 千円	①参加者数160人 ②満足度100%	実行委員会の募集、イベント開催(2回)
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	930千円	930千円	○受託者 秋田商工会議所 ○実行委員会 市内在勤・在住の独身男女10人 ○実施内容 ウォークラリー&パーティー2回、クリスマスパーティー1回の計3回開催 ○参加者数 延べ168人(男84人・女84人) ○満足度 86.1%(3回平均)	参加者数、満足度ともに今年度の目標を達成することができた。一部、定員を上回る申込みがあったこと、満足度が高かったことを踏まえ、23年度は2団体に委託する。
23	1,703千円	1,597千円	○受託者 ①秋田商工会議所 ②エフエム秋田 ○実行委員会 いずれも市内在勤・在住の独身男女10人 ○実施内容 ①ウォークラリー&交流パーティー2回、新年交流パーティー1回の計3回開催 ②スポーツ観戦&交流パーティー2回、交流パーティー1回の計3回開催 ○参加者数 ①延べ149人(男75人・女74人)②延べ	今年度は2団体に委託し、満足度はわずかに目標に達しなかったものの、多くの参加があり、一定の効果があった。24年度は、開催団体の自主性等を重視し、委託から補助に切り替える。

			157人(男82人、女75人) ○満足度 ①92.2% ②78.3% ※いずれも3回 平均	
24	1,360千円	千円		
25	0千円	0千円		
26	0千円	0千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 558000 都市整備部 60まちづくり整備室

【取組・事業No.】 3102 【取組・事業名】 秋田駅周辺まちづくりイベント支援事業

【事業概要】

若い世代のまちづくりの担い手を育てるため、秋田市中心市街地活性化基本計画区域での新たなまちづくりイベントの事業費の一部を助成する。
また、若者を中心とする各団体のメンバーが一堂に会し、若者の居場所や交流の場づくり等の少子化を克服するための活性化策について、様々な視点から話し合う場を設け、今後の活動の発展につなげていく。

【事業の目標】

若者による地域活性化のためのイベントに対して、事業費の一部を助成することで、交流と賑わいづくりを図ります。

【事業の目標指標】

＜指標＞ 参加者満足度 ＜20年度実績値＞－＜26年度目標値＞ 50％

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	2,941 千円	参加者満足度80% スタッフ合計319人、 入場者合計 11,309人	若者による地域活性化のためのイベントに対して、 事業費の一部を助成
■ 23	3,000 千円	参加者満足度80% スタッフ合計 1,634人、入場者合 計72,680人	若者による地域活性化のためのイベントに対して、 事業費の一部を助成
■ 24	3,000 千円	参加者満足度80%	若者による地域活性化のためのイベントに対して、 事業費の一部を助成
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】

☐ 子ども ☒ 若者 ☐ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 他の区分 ☐ ()
 ＜子どもの対象年齢＞ 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	3,000千円	2,941千円	5事業を選定し、助成金を交付した	応募が12件と需要が高い事業であったが、今後は賑わい作りを図るとともに、若者同士の交流についても推進していく。
23	3,000千円	3,000千円	5事業を選定し、助成金を交付した	
24	3,000千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 100500 企画財政部 10企画調整課

【取組・事業No.】 3103 【取組・事業名】 トップスポーツクラブ主催イベントへの支援

【事業概要】 秋田ノーザンハピネッツ、ブラウブリッツ秋田、秋田ノーザンブレッツの3チームが主催する、選手とのふれ合いやスポーツ体験、または若者同士の交流、出会いの機会となるイベントに対し、その開催経費を補助する。

【事業の目標】 若者による地域活性化のためのイベントに対して、事業費の一部を助成することで、交流と賑わいづくりを図ります。

【事業の目標指標】 <指標> 参加者満足度 <20年度実績値> - <26年度目標値> 100%

【関係データ】

【関係HP】

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の推移見込み	実施内容
■ 22	100 千円		各チームが主催する青少年交流イベントに対し、最大10万円を補助する。
□ 23	千円		
□ 24	千円		
□ 25	千円		
□ 26	千円		

【事業対象の区分】 子ども ☐ 若者 ☒ 妊婦 ☐ 産婦 ☐ 父親 ☐ 母親 ☐ 他の区分 ☐ ()
<子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	300千円	100千円	秋田ノーザンブレッツのブレッツナイト2010に対し補助金を交付した。(9/3(金)ホテルメトロポリタン秋田で開催)	イベントに対する補助のため、対象経費が明確にしづらく、補助効果も見だし難い点が課題であった。 また、申請する側にとっては、補助金を充てたい事業が、当該事業目的および内容と合致しないため、申請に至らないケースがあった。そのため、平成22年度は、1チームから申請があったものの、他の2チームは、未申請である。上記により、平成23年度からは当該補助事業を廃止したもの。
23	千円	千円		
24	千円	千円		
25	千円	千円		
26	千円	千円		

取組・事業検証シート

【部局課所室】 356000 商工部 40大森山動物園

【取組・事業No.】 3104 【取組・事業名】 動物園ときめきナイト事業

【事業概要】 若者による実行委員会を組織し、若者が動物園で集い、ガイドツアーや大森山の景観を楽しむなどの企画を開催する

【事業の目標】 若者が動物園で集う出会いの場を創出し、秋田の若者の交流機会拡大を図る。

【事業の目標指標】 <指標> 参加者の満足度 <20年度実績値> <26年度目標値> 100%

【関係データ】

【関係HP】 大森山動物園ホームページ

【実施計画】

年度	事業費	目標指標の 推移見込み	実施内容
☐ 22	千円		
☒ 23	861 千円	100%	出会いの場の提供
☒ 24	1,000 千円	100%	出会いと交流の場の提供
☐ 25	千円		
☐ 26	千円		

【事業対象の区分】 子ども 若者 妊婦 産婦 父親 母親 他の区分
☐ ☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ()
 <子どもの対象年齢> 歳～ 歳

年度	予算	決算(見込み)	事業実績	課題・改善点・対応方針等
22	千円	千円		
23	861千円	861千円	夏と冬、計2回の交流会に 延べ63名の若者が参加	業務委託で2回の交流会企画を実施したが、委託費の支払いが全て終了後であったため、受託先に負担となってしまった。
24	1,000千円	千円		委託費の支払いを各回ごとに支払いが可能となる契約内容に改善する。
25	千円	千円		
26	千円	千円		

